

コロナ禍における法文学部の 被災記録の収集と保存Ⅶ

— 2022年度学生を対象としたアンケート調査の単純集計結果 —

Collection and Preservation of Records of Disaster Experiences of Students, Faculty and Staff in the Faculty of Law and Letters, Ehime University during the Coronavirus Pandemic(Ⅶ): A summary statistics of a questionnaire survey of students in Academic Year 2022-23

青木理奈・鈴木 静・福井秀樹
小佐井良太 (福岡大学法学部)・石坂晋哉・太田響子
池 貞姫・十河宏行・中川未来

1. はじめに

2020年度から、本プロジェクトでは新型コロナウイルスの感染拡大に伴う愛媛大学法文学部生への影響について、アンケート等を通じて具体的な被害や葛藤、適応するプロセスの一端を明らかにしてきた。2022年11月末現在、新型コロナウイルス感染症蔓延は収束の兆しを見せていない。しかし全国的にも大学のコロナ禍対応は、大きな変化を迎えている。愛媛大学も同様であり、2022年4月から原則対面による授業に切り替えられている。

コロナ禍前の教育提供体制に戻りつつあるとはいえ、コロナ禍以前にはなかったストレスを抱えて生活していることが推測される。たとえば、学生らは教室ではマスクを着用し、1日に何度も手指消毒を行い、教室の換気を常に気にせざるを得ない。何より2年間にわたる遠隔授業から原則対面授業への切り替えは、学生にとっては生活サイクルの激変を意味する。通学時間が増えること、授業時間は高校までに比べ長時間であり、慣れるまでは集中力を保持し、理解すること自体がストレスになることも考えられる。また専門演習等では、他の学生と議論すること等も経験が求められるこ

とであり、慣れるまではストレスを感じるかもしれない。入学以降に遠隔授業しか経験してこなかった学生には、原則として対面授業への切り替えは、喜ばしいことばかりではなく、不安や葛藤、新たなストレスを抱えることになっていると推測される。

こうした影響や変化に着目し、本プロジェクトは今年度も愛媛大学法文学部学生を対象とし、アンケート調査を実施した。そもそも本プロジェクトは、今回の新型コロナウイルスのような全世界的規模で起きている災厄について、記録や教訓を収集、保存し、継承していくことを目的としている。今回のような長期化するコロナ禍において、時系列で保存し、継続的に記録・収集することが重要であると考えている。これまで愛媛大学法文学部の学生を対象とし、アンケートを2020年度^①と2021年度^②に実施し、学生手記も2年間分収集・分析^{③④}、さらに座談会^{⑤⑥}も2年間開催してきた。

本調査では、コロナ禍における大学生の実態を継続的に探求し、今年度の学修状況や生活状況への影響を把握することを目的とする。そして、今年度のコロナ禍における学生生活の記録として保存し、その一部につき公表する。

2. 新型コロナウイルス感染対策期における愛媛大学法文学部での授業実施について

(1) 愛媛県における新型コロナウイルス感染状況と愛媛大学の対応

実質的には「新型コロナ3年目」となった2022年度は、新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づく緊急事態宣言が発令されることはなかったものの、夏頃には全国的に「オミクロン株」の大流行が見られた。愛媛県においても、かつてない感染者数を数え、保健・医療体制のひっ迫を回避するため引き続き県独自の警戒態勢がとられるなど、依然として予断を許さない状況が続いた。一方で、「ウィズコロナ」の日常生活という観点から、それまでの2年間と比べ県民の行動制限は緩められる傾向も見られた。

愛媛大学のBCP（事業継続計画）ステージは、令和4（2022）年1月14日に「ライトイエロー」から「オレンジ」に引き上げられたが、6月23日に「ライトイエロー」に引き下げられた（2022年11月25日現在¹⁾。この間、愛媛大学では2022年4月～6月に学生・教職員等に対するワクチンの職域追加接種（3回目）が実施された²⁾。

1) 愛媛大学関係者のコロナウイルス感染者数（累計）は、令和4（2022）年11月20日までに学生等1,175人、教職員507人、合計1,682人であると公表されている。

2) また、国の事業として、新型コロナウイルス感染症の影響で困窮する学生等を支援するため創設された「学生等の学びを継続するための緊急給付金」の募集（給付額10万円）が実施された（申請不要分：令和3年12月10日支給、第1次申請締切：令和4年1月12日、第2次申請締切：令和4年2月16日）。

(2) 愛媛大学法文学部の学生数

2022年11月現在の愛媛大学法文学部の学部生数、大学院生数は、以下のとおりである。学部生合計は1,608人、大学院生数は34人である。学部生の内訳は、昼間主法学・政策学履修コースが337人、昼間主人文学履修コースが366人、夜間主法学・政策学履修コースが147人、夜間主人文学履修コースが182人、グローバルスタディーズ履修コースが190人（昼間主のみ）であり、改組前の旧総合政策学科の昼間主が1人、夜間主が1人、昼間主人文学科が1人である。大学院生の内訳は、人文社会科学研究所院生が31人、改組前の法文学研究科院生が3人である。学部生と院生のうち、留学生は18人である。

(3) 愛媛大学法文学部における授業実施状況

愛媛大学法文学部は、2020年度前学期の第1クォーター期間から第2クォーター期間の授業形態は、遠隔授業を実施し、対面授業は行わなかった。2020年度後学期の第3クォーター期間から第4クォーター期間の授業形態は、対面授業を可能な限り開講するとともに、遠隔授業も実施された。

2021年度前学期の第1クォーター期間から第2クォーター期間の授業形態は、「遠隔授業を積極的に行いつつも、感染防御対策を徹底しながら、対面授業も可能な限り開講」することとしていたが、4月22日から「(特例的な授業を除き)遠隔授業のみ」に変更された。この結果、演習系科目を中心に対面授業とし、段階的に講義系科目も対面授業に拡大した。後学期の第3クォーター期間（9月24日～12月3日）は「遠隔授業を基本とするが、徹底した感染防御対策のもと対面授業も可能な限り開講」とされ、第4クォーター期間（12月4日～3月31日）は「徹底した感染防御対策のもと対面授業を実施」した。

2022年度前学期からは、一部（共通教育「学問分野別科目」）を除き、原則対面授業となっている。

3. 対象と方法

本アンケート調査の対象者は、法文学部の学生であり、調査期間は、2022年10月20日～11月7日である。

調査方法は、インターネットでの無記名自記式アンケートを採用した。プロジェクトに所属する教員から学生へ周知するとともに、教育支援課法文学部チームから法文学部の学生へ一斉送信による周知を行った。集まった回答は、590人であった。重複回答は0件であり、590人のデータ全てが有効回答であった。

アンケート内容は、(1) 回答者の属性について7項目、(2) 対面及び遠隔授業における学修面が13項目、(3) フィールドワークや、部活・サークル等の課外活動面1項目、(4) 長期化するコロナ禍での生活面が7項目、合計28項目から構成されている。アンケートの回答は必須とする選択方式の項目と、必須ではない自由記述の項目を作成した。また、今年度は2020年度から継続している法文学部の調査項目及び、新型コロナウイルス感染症の大学生への影響に関するアンケート調査結果 (Murta and Orito, 2022) を参考にしつつ、社会共創学部の研究プロジェクト組織との共同で質問票を設計し、調査を実施した³⁾。アンケートを資料1に示す。

4. 倫理的配慮

本調査において、対象者に対する倫理的配慮を以下のようにした。

- (1) 不必要な負荷や負担への配慮：回答は任意でありかつ匿名である。対象者に不必要な負荷や負担は生じない。
- (2) 個人のプライバシー保護への配慮：匿名で回答する。アンケート結果についても守秘義務を厳守し、個人のプライバシーを厳重に保護する。
- (3) 協力拒否への不利益への配慮：回答は任意であり、回答後に対象者が回答内容について削除を求めた場合には、即座に応じる。協力拒否への不利益は生じない。
- (4) 調査協力への理解や同意：担当教員からの説明およびアンケート冒頭に調査協力への理解を求める。

その他、アンケート作成において、個人情報が含まれないようにした。参加者には調査の趣旨が十分伝わるように冒頭に説明を書いた上で、参加は任意であることを説明し、アンケートに回答し送信された時点で同意とした。

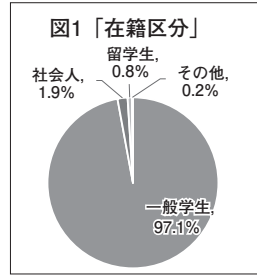
5. 結果

本調査は、(1) 回答者の属性、(2) 学修面について、(3) 課外活動面について、(4) 生活面について、学生の状況を把握した。

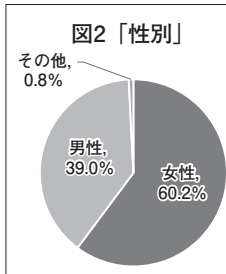
3) 同時期に愛媛大学社会共創学部でも同様のアンケート調査が行われており、その結果は折戸ら (2023) に公表予定である。

(1) 回答者の属性

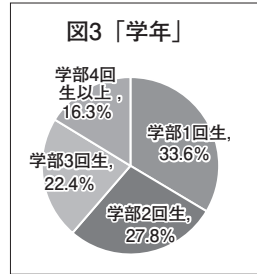
1) 回答者590人の在籍区分(身分)は、「一般学生」573人(97.1%)、「社会人」11人(1.9%)、「留学生」5人(0.8%)、「その他」1人(0.2%)である(図1)。



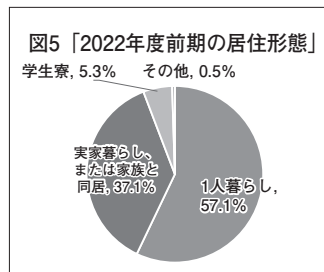
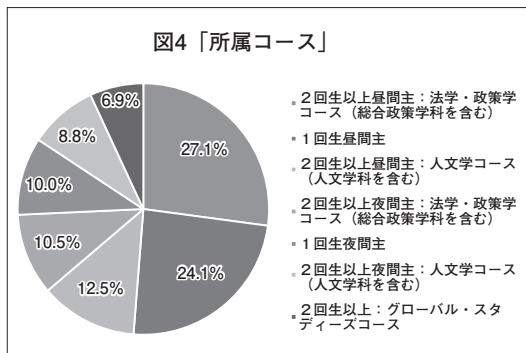
2) 性別は、「男性」230人(39.0%)、「女性」355人(60.2%)、「その他」5人(0.8%)である(図2)。



3) 学年は、「学部1年生」198人(33.6%)、「学部2年生」164人(27.8%)、「学部3年生」132人(22.4%)、「学部4年生以上」96人(16.3%)、「大学院1年生」0人、「大学院2年生以上」0人である(図3)。

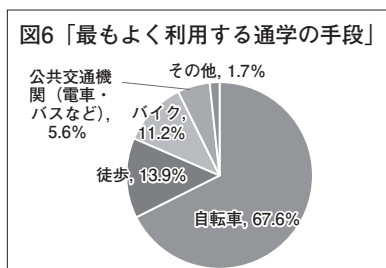


4) 所属コースは、「1年生昼間主」142人(24.1%)、「1年生夜間主」59人(10.0%)、「2年生以上昼間主：法学・政策学履修コース(総合政策学科を含む)」160人(27.1%)、「2年生以上夜間主：法学・政策学履修コース(総合政策学科を含む)」62人(10.5%)、「2年生以上昼間主：人文学履修コース(人文学科を含む)」74人(12.5%)、「2年生以上夜間主：人文学履修コース(人文学科を含む)」52人(8.8%)、「昼間主：グローバル・スタディーズ履修コース」41人(6.9%)である(図4)。

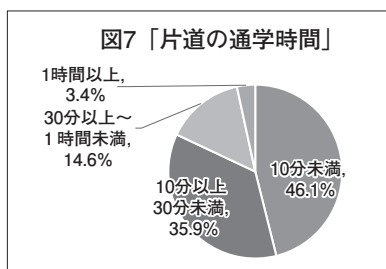


5) 2022年度前期の居住形態は、「1人暮らし」337人(57.1%)、「実家暮らし、または家族と同居」219人(37.1%)、「学生寮」31人(5.3%)、「その他」3人(0.5%)である(図5)。

6) 最もよく利用する通学の手段は、「公共交通機関(電車・バスなど)」33人(5.6%)、「徒歩」82人(13.9%)、「自転車」399人(67.6%)、「バイク」66人(11.2%)、「その他」10人(1.7%)である(図6)。



7) 片道の通学時間は、「10分未満」272人(46.1%)、「10分以上30分未満」212人(35.9%)、「30分以上～1時間未満」86人(14.6%)、「1時間以上」20人(3.4%)である(図7)。

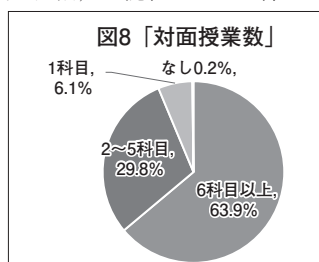


(2) 学修面について

前期(1Q/2Q)における法文学部と共通教育の遠隔授業について単純集計の結果を示す。なお、1科目の講義形態で、授業形態(対面・遠隔)が混在している科目の場合は、回数が多かった方を選択してもらった。

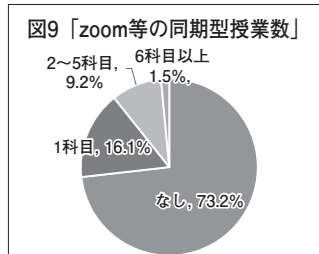
1) 対面授業

「対面での授業は何科目ありましたか」の質問に対し、「1科目」36人(6.1%)、「2～5科目」176人(29.8%)、「6科目以上」377人(63.9%)、「なし」1人(0.2%)である(図8)。



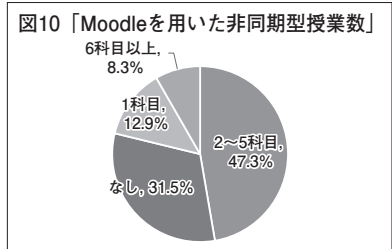
2) Zoomを用いた同期型授業数

「Zoom等の同期型授業は何科目ありましたか」の質問に対し、「1科目」95人(16.1%)、「2～5科目」54人(9.2%)、「6科目以上」9人(1.5%)、「なし」432人(73.2%)である(図9)。



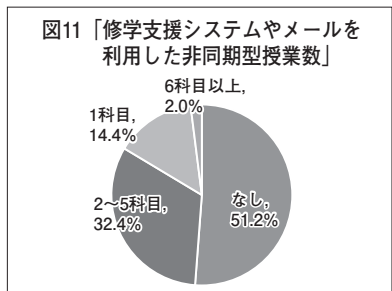
3) Moodle を用いた非同期型授業数 (動画配信型)

「Moodle を利用した動画配信型の非同期型授業は、何科目ありましたか」の質問に対し、「1科目」76人 (12.9%)、「2～5科目」279人 (47.3%)、「6科目以上」49人 (8.3%)、「なし」186人 (31.5%) である (図10)。



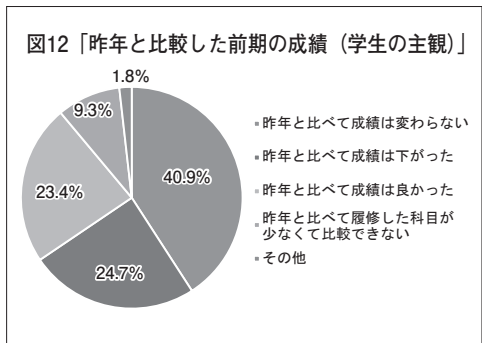
4) Moodle を用いた非同期型授業数 (PPT・PDF ファイル等の資料のみ)

「Moodle を利用した資料 (PPT ファイルや PDF ファイル) のみの非同期型授業は、何科目ありましたか。」の質問に対し、「1科目」85人 (14.4%)、「2～5科目」191 (32.4%)、「6科目以上」12人 (2.0%)、「なし」302人 (51.2%) である (図11)。



5) 前期の成績に対する学生の主観

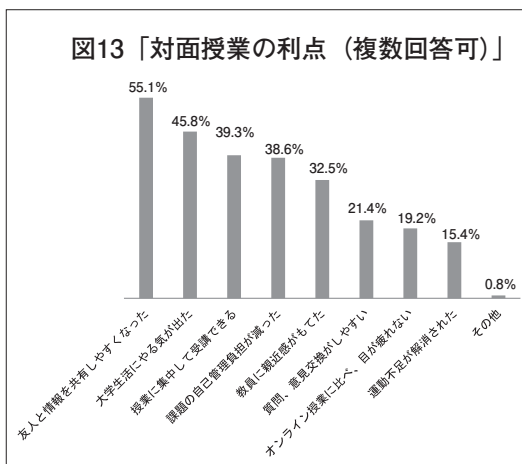
「昨年までと比較して、前期の成績 (単位取得数、評価) はいかがでしたか」の質問に対し、「1回生なので昨年と比べられない」201人 (34.1%) を除く389人の回答は、「昨年と比べて成績は良かった」91人 (23.4%)、「昨年と比べて成績は変わらない」159人 (40.9%)、「昨年と比べて成績は下がった」96人 (24.7%)、「昨年と比べて履修した科目が少なくて比較できない」36人 (9.3%)、「その他」7人 (1.8%) である (図12)。



6) 対面授業の利点

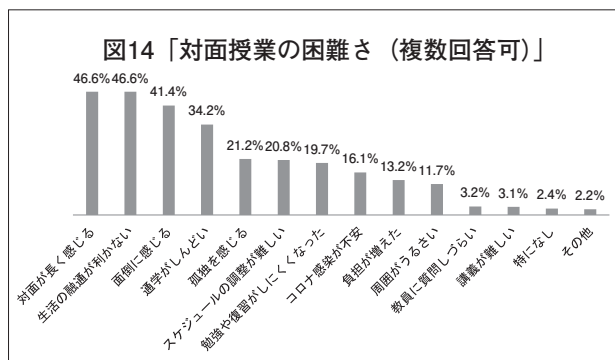
今年度の新設した設問であり、「原則、対面授業を受けるようになって良かったことを教えてください (複数回答可)」と尋ねた。その結果、「友人と一緒に授業を受けられ、授業や大学生活に関する情報を共有しやすくなった」325人

(55.1%) が最も多く、「生活にメリハリがつき、大学生活にやる気が出た」270人(45.8%)が続く。以下、「授業に集中して受講できる」232人(39.3%)、「課題の提出頻度が少なく、課題の提出期限や進捗を自己管理する負担が減った」228人(38.6%)、「教員の顔・表情・声が分かり、教員に親近感もてた」192人(32.5%)、「教員や他の学生への質問、意見交換、グループディスカッションがしやすい」126人(21.4%)、「オンライン授業に比べ、目が疲れない」113人(19.2%)、「運動不足が解消された」91人(15.4%)と続く。また、「特になし」6人(1.0%)、「その他」5人(0.8%)である(図13)。



7) 対面授業の困難さ

今年度に新設した設問である。「原則、対面授業を受けるようになったことで困ったことを教えてください(複数回答可)」の質問に対し、「対面での授業が長く感じる」275人(46.6%)、「空コマや移動時間があるため、時間の融通が利かなくなった」275人(46.6%)が同数で最も多く、「移動に時間がかかり、面倒を感じる」244人(41.4%)、「毎日、通学することが体力的にしんどい」202人(34.2%)、「大学にあまり友人、知人が多くないため、孤独を感じる」125人(21.2%)、「1日にオンラインと対面の講義が混在するため、受講環境やスケジュール

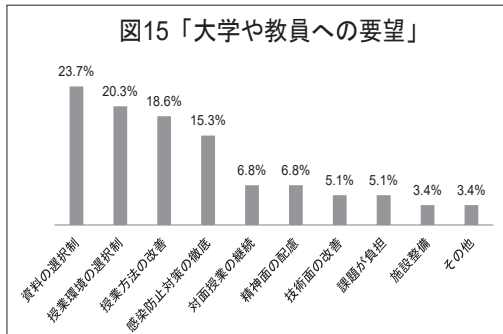


ルの調整が難しくなった」123人（20.8%）、「資料や動画を繰り返し見ることができなくなり、勉強や復習がしにくくなった」116人（19.7%）、「新型コロナウイルスの感染を不安に感じる」95人（16.1%）、「グループディスカッションや討論が増え、負担に感じる」78人（13.2%）、「周囲の学生がうるさく感じる」69人（11.7%）、「教員が丁寧に対応してくれない、教員に質問しづらい」19人（3.2%）、「講義内容の難易度が高すぎる」18人（3.1%）が続く。また、「特になし」14人（2.4%）、「その他」13人（2.2%）である（図14）。

8) 大学や教員への要望

今年度に新設した質問である。「原則として対面授業になった状況で、大学や教員に希望することがあれば、自由にお書き下さい。」の自由記述項目に対し、得られた回答（複数回答有）は64件であった。

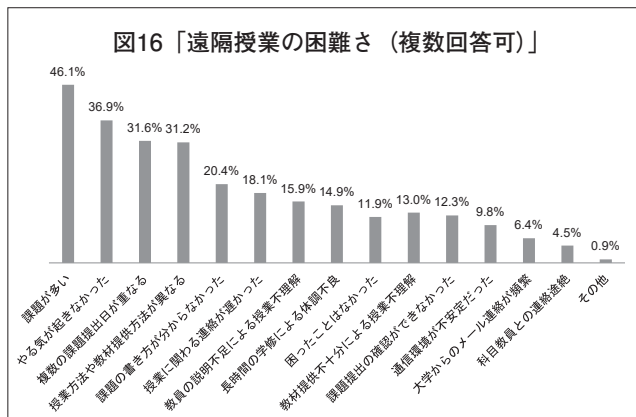
分類した結果、Moodle、YouTubeに授業内容、資料をあげてほしい、紙媒体でほしいといった「資料の選択制」を希望する声が14件（21.9%）と最も多く、必要に応じて遠隔授業も受けられるようにしてほしいといった「授業環境の選択制」を希望する声が12人（18.8%）に続く。さらに、対面ならではの良さの発揮を求める「授業方法の改善」11件（17.2%）、マスク着用、換気、収容人数等を徹底して欲しいといった「感染防止対策の徹底」の声が9件（14.1%）が続く。さらに少数意見になるが、「対面授業の継続」4件（6.3%）、そして、学生の気持ち等を気にかけて欲しいといった「精神面の配慮」を求める声が4人（6.3%）、マイクの音量・スクリーン投影、出欠システム等の教員側の「技術面の改善」が3人（4.7%）、「課題が負担」3人（4.7%）、大学内にてZoomで発言ができる部屋が欲しいといった「施設整備」2人（3.1%）、「その他」2人（3.1%）が続く（図15）。具体的な回答を資料2に示す。



9) 遠隔授業の困難さ

「遠隔授業を受ける上で、困ったことを教えてください（複数回答可）」の質問に対し、「遠隔授業がなかった」61人（10.3%）を除く529人の回答は、「課題

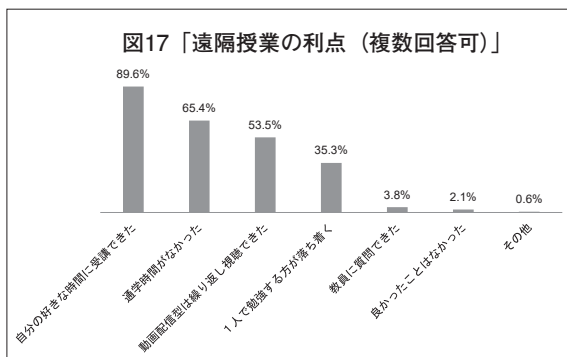
やレポート提出の回数が多かった」244人(46.1%)が最も多く、回答者の過半数に近い割合である。続いて「非同期の講義はいつでも受講できるため後回しになり、やる気が起きな



かった」195人(36.9%)、「複数の科目の課題やレポート提出日が重なった」167人(31.6%)、「授業科目により授業形態や教材提供方法が異なり、分かりにくかった」165人(31.2%)、「課題やレポートの書き方が分からなかった」108人(20.4%)、「大学や担当教員からの授業に関わる連絡が遅かった」96人(18.1%)、「教員による説明が少なく、授業内容を理解できなかった」84人(15.9%)、「長時間の学修により、目や肩が疲れ、体調が悪くなった」79人(14.9%)、「困ったことはなかった」70人(13.2%)、「教材の提供が不十分で、授業内容を理解できなかった」69人(13.0%)、「課題の提出状況を確認できなかった」65人(12.3%)、「通信環境の関係で、同期型の授業受信が不安定だった」52人(9.8%)、「大学や担当教員からのメール連絡が頻繁であった」34人(6.4%)、「科目教員と連絡がつかなかった/つきにくかった」24人(4.5%)、「その他」5人(0.9%)である(図16)。

10) 遠隔授業の利点

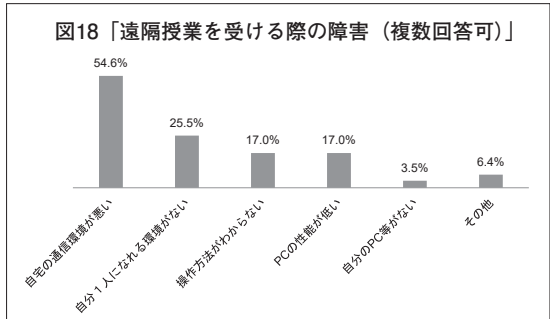
「遠隔授業を受ける上で、良かったことがあれば教えてください(複数回答可)」の質問に対し、「遠隔授業がなかった」61人(10.3%)を除く529人の回答は、最も多かつ



たのは「自分の好きな時間や場所で受講できた」474人（89.6%）であり、回答者の約9割もが選択している。続いて「通学時間がなかった」346人（65.4%）、「動画配信型の教材を繰り返し視聴できた」283人（53.5%）、「1人で勉強する方が落ち着く」187人（35.3%）が選択され、少数意見では「教員に質問できた」20人（3.8%）、「良かったことはなかった」11人（2.1%）、「その他」3人（0.6%）が見られた（図17）。

11) 遠隔授業を受ける際の障害

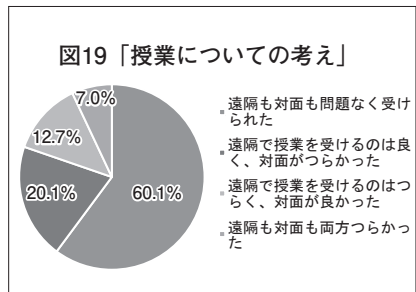
「遠隔授業を受ける上で障害になっていたことはどのようなことですか（複数回答可）」の質問に対し、「特になし」387人（65.6%）が最も多かった。その上で、「特になし」と「遠隔授業がなかった」62人（10.5%）



を除く141人の回答を見ると、「自宅の通信環境が整っていなかった（通信速度が遅い等も含む）」77人（54.6%）が最も多く過半数を越した。続いて「自分1人になれる部屋（環境）がなかった」36人（25.5%）、「Moodleなどの操作方法がわからなかった」24人（17.0%）、「自分のパソコン（スマホ、タブレット含む）の性能が低かった」24人（17.0%）が見られた。少数意見では、「自分のパソコン（スマホ、タブレット含む）がなかった」5人（3.5%）、「その他」9人（6.4%）が見られた（図18）。

12) 授業を受けていた時の気持ち

今年度で新設した質問である。「対面授業や遠隔授業について、あなたの考えに近いものを教えてください」に対し、遠隔授業がなかった48人（8.1%）を除く542人の回答は、「遠隔も対面も問題なく受けられた」326人（60.1%）が最も多く約6割を示した。続いて、「遠隔で授業を受けるの



は良く、対面が良かった」109人（20.1%）、「遠隔で授業を受けるのはつらく、対面が良かった」69人（12.7%）、「遠隔も対面も両方つらかった」38人（7.0%）である（図19）。また、学年ごとのクロス集計結果は、表1の通りである。

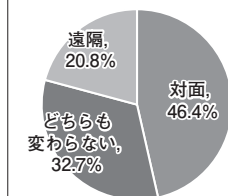
表1 授業形態による学生の主観と学生との関係

		3. 学年を教えてください。				合計
		学部1回 生	学部2回 生	学部3回 生	学部4回 生以上	
遠隔で授業を受けるのはつらく、 対面が良かった	人数	13	15	23	18	69
	%	6.6%	9.1%	17.4%	18.8%	11.7%
遠隔で授業を受けるのは良く、 対面が良かった	人数	36	48	17	8	109
	%	18.2%	29.3%	12.9%	8.3%	18.5%
遠隔も対面も問題なく受けられた	人数	131	88	57	50	326
	%	66.2%	53.7%	43.2%	52.1%	55.3%
遠隔も対面も両方つらかった	人数	15	8	9	6	38
	%	7.6%	4.9%	6.8%	6.3%	6.4%
遠隔授業がなかった	人数	3	5	26	14	48
	%	1.5%	3.0%	19.7%	14.6%	8.1%
合計	人数	198	164	132	96	590
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

13) 授業の理解度

今年度の新設した質問である。「全体的に授業の理解度に関して、遠隔と対面のどちらのほうがよかったですか」に対し、「対面」274人（46.4%）が最も多く、「どちらも変わらない」193人（32.7%）、「遠隔」123（20.8%）が続く（図20）。

図20 「授業の理解度」



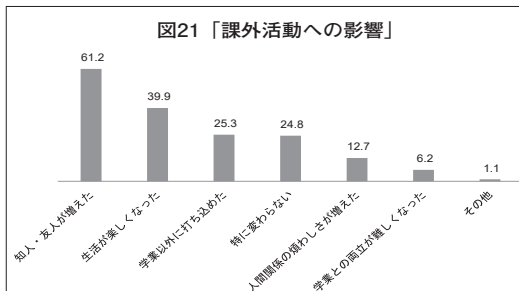
(3) 課外活動面について

フィールドワークや、部活・サークル活動について単純集計を示す。

1) 課外活動での影響について

今年度の新設した質問である。「フィールドワークや部活・サークル活動において、どのような影響がありましたか（複数回答可）」に対し、「フィールドワークを行わなかった、または、部活・サークルに所属

図21 「課外活動への影響」



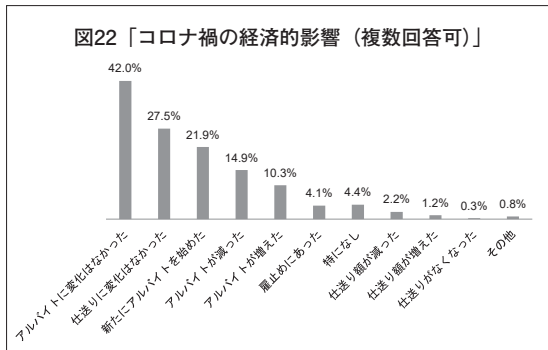
していない」219人（37.1％）を除く371人の回答は、「学内（外）で知人・友人が増えた」227人（61.2％）が最も多く回答者の6割を越した。続いて「身体を動かせたり、仲間と活動することができ、生活が楽しくなった」148人（39.9％）、「学業以外で打ち込むことが見つかった」94人（25.3％）、「特に変わらない」92人（24.8％）、「人間関係の煩わしさが増えた」47人（12.7％）、「活動に時間をとられ、学業との両立が難しくなった」23人（6.2％）、「その他」4人（1.1％）である（図21）。

(4) コロナ禍の生活面について

長期化するコロナ禍での生活面について単純集計の結果を示す。

1) 経済的影響

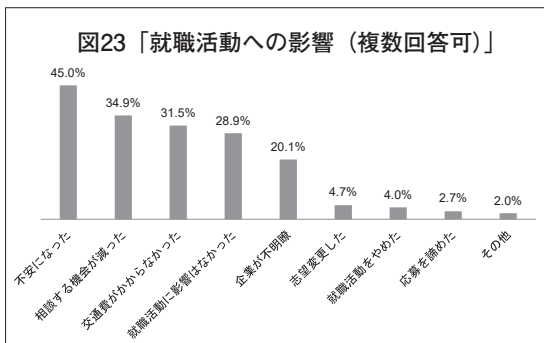
「2022年4月以降も感染拡大の波がある中で、どのような経済的な影響がありましたか」の質問に対し、「アルバイトに入る回数や時間に変化はなかった」248人（42.0％）、「保護者からの仕送りに変化はなかった」162（27.5％）と、変化がなかったとする回答が上位を占めた。続いて「新たにアルバイトを始めた」129人（21.9％）と経済的に良い影響が続く。さらに「アルバイトに入る回数や時間が減った」88人（14.9％）、「アルバイトに入る回数や時間が増えた」61人（10.3％）が続き、少数意見ながら「アルバイト先が休業したり、雇止めにあった」24人（4.1％）、「特になし」26人（4.4％）、「保護者からの仕送り額が減った」13人（2.2％）、「保護者からの仕送り額が増えた」7人（1.2％）、「保護者からの仕送りがなくなった」2人（0.3％）、「その他」5人（0.8％）と続いた（図22）。



2) 就職活動への影響

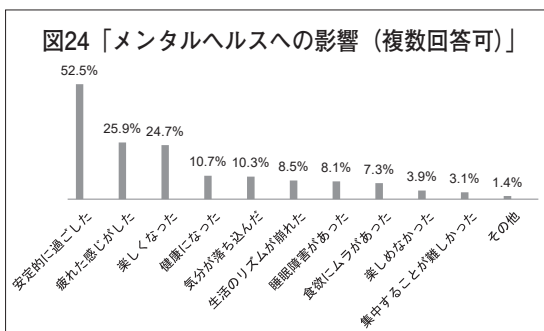
今年度に新設した質問である「就職活動（インターンシップは除く）にどのような影響がありましたか（複数回答可）」に対し、「4回生以上ではない、または

就職活動はしていない」441人(74.7%)を除く、149人の回答は、「自分以外の人の就活状況がわからず、不安になった」67人(45.0%)が最も多かった。続いて「人と会う機会が減ったため、就職活動について相談する機会が減った」52人(34.9%)、「選考がオンライン化され、交通費がかからず、地理的に遠い会社も選択肢に入れることができた」47人(31.5%)、「就職活動に影響はなかった」43人(28.9%)、「選考がオンライン化され、採用担当者や企業のことがあまりよくわからなかった」30人(20.1%)が続く。少数意見としては「志望業界を見直した(変更した)」7人(4.7%)、「就職活動をやめた」6人(4.0%)、「希望していた企業や自治体の応募を諦めた」4人(2.7%)、「その他」3人(2.0%)が見られた(図23)。



3) メンタルヘルスへの影響

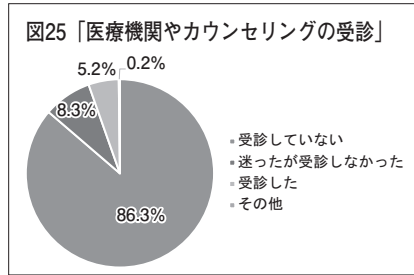
今年度到新設した質問「原則、対面授業になって、メンタルヘルスにどのような変化がありましたか(複数回答可)」に対し、「通常と変わらず、安定的に過ごした」310人(52.5%)」が最も多く回答者の過半数にあたる。続いて「疲れた感じがした、または気力がなかった」153人(25.9%)、「コミュニケーションが活発になり、楽しくなった」146人(24.7%)、「身体を動かすことによって、体調が良くなった、健康になった」63人(10.7%)、「気分が落ち込んだ」61人(10.3%)が続く。さらに少数意見では、「生活のリズムが崩れた」50人(8.5%)、「寝つきが悪くなった、途中で目が覚めた、反対に眠り過ぎた」48人(8.1%)、「食欲がなかった、あるいは食べ過ぎた」43人(7.3%)、「物



事に対してほとんど興味が無くなった、楽しめなかった」23人（3.9%）、「新聞やテレビを見ることなどに集中することが難しかった」18人（3.1%）、「その他」8人（1.4%）が見られた（図24）。

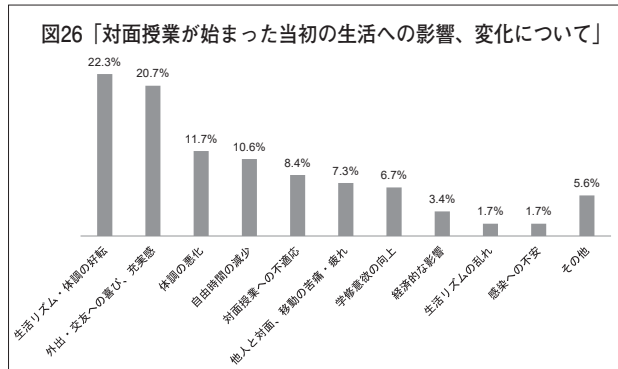
4) 医療機関の受診について

「長期化するコロナ禍でのメンタル不調により、2022年4月以降、医療機関やカウンセリングに行きましたか（無回答可）」の質問に対し、回答があった577件の内訳は、「受診していない」498人（86.3%）が約8割と多いが、「迷ったが受診しなかった」48人（8.3%）、「受診した」30人（5.2%）の数は留意しなければならない（図25）。



5) 対面授業が始まった当初の生活への影響、変化について（自由記述）

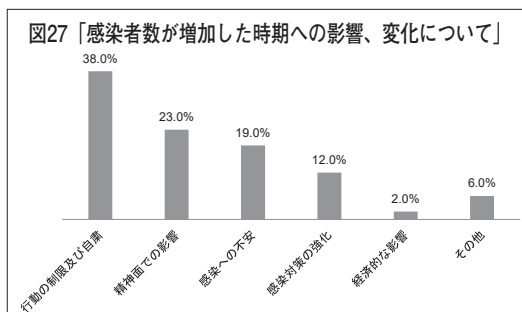
2022年度に「2022年4月以降、原則対面授業になり、あなたの生活に、どのような影響がありましたか」の自由記述項目に対し、得られた回答（複数回答有）は、179件だった。分類した結果、生活リズムが戻った、体調がよくなった等「生活リズム・体調の好転」40人（22.3%）が最も多い。続いて、人と会える、友人が増える、交流が広がることへの喜び、生活への充実を感じる等「外出・交友への喜び、充実感」37人（20.7%）、体力減少等による身体の疲れ、早起きの辛さ、精神面での辛さ 孤独感等「（精神面・身体面）体調の悪化」21人（11.7%）、時間の制約、時間の融通が利かなくなった、自分の時間の減少「自由時間の減少」19人（10.6%）が続く。さらに、対面だと長く感じる、対面ばかりでサボってしまった「対面授業への不適応」15人（8.4%）、人間関係の悩み、通学の面倒臭さ「他人と対面すること、移動することへの苦痛・疲れ」13人（7.3%）、理解、



対面授業が嬉しい、やる気等「学修意欲の向上」12人（6.7%）、アルバイト減少等「経済的な影響」6人（3.4%）、「生活リズムの乱れ」3人（1.7%）、「感染への不安」3人（1.7%）が見られた（図26）。具体的な回答を、資料3に示す。

6) 新型コロナウイルス感染者数が増加した時期への影響、変化について（自由記述）

「6. 原則対面授業が続く中、行動制限はないものの、新型コロナウイルス感染者数が増加した時期もありました。このことによって、あなたの生活に、どのような影響がありましたか」の自由記述項目に対し、得られた回答（複数回答有）

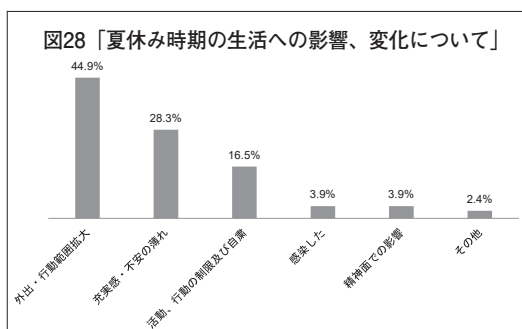


は100件であった。分類した結果、「外出、活動、行動の制限及び自粛」38人（38%）が最も多く、楽しみがなくなることや不安、怒り、意欲低下、諦め等による「精神面での影響」23人（23%）、主に対面授業に対しての「感染への不安」19人（19%）、「感染対策の強化」12人（12%）、アルバイトに入れなくなった「経済的な影響」2人（2%）が続いた（図27）。具体的な回答を、資料4に示す。

7) 夏休み時期の生活への影響、変化について（自由記述）

「7. 2022年の夏休みは、行動制限はありませんでしたが、このことによって、あなたの夏季休業期間での生活においてどのような影響がありましたか」の自由記述項目に対し、得られた回答（複数回答有）は、127件であった。

分類した結果、帰省・旅行・アルバイト等「外出・行動範囲拡大」57人（44.9%）が最も多く回答者の過半数近くを占める。続いて、規制緩和で行動できたことにより 楽しい、打ち込めた、外出できることへの喜び等「充実感・不



安の薄れ」36人(28.3%)、主に部活動の制限、不要不急の外出自粛等「活動、行動の制限及び自粛」21人(16.5%)、新型コロナウイルスに「感染した」5人(3.9%)、自由に活動できないことへの憤り、活動への罪悪感や迷い「精神面での影響」5人(3.9%)が続いた(図28)。具体的な回答を、資料5に示す。

6. 考 察

本調査結果は、長く続くコロナ禍において、大学生がどのように学修・生活しているのか、また、大学は、今後どのような取り組みを進めていく必要があるのか、数多くの示唆を与えるものとなっている。

コロナ感染拡大開始である2020年から継続している本プロジェクトの調査から読み取れる傾向として、愛媛大学法文学部における学生のコロナ禍への対応は、「コロナ疲れ」を感じつつも、学修方法や日常生活の過ごし方を自ら工夫しておおむね乗り切っているとみてよいだろう。2022年度より原則対面授業となり、学生間の交流が活発化したことをポジティブに捉えている学生が大半である。一方で、90分の対面授業に対して、授業が長く感じる学生が約4割にもおよび、通学や授業時間の空きコマ等の時間の使い方に戸惑う学生も4割にのぼる。2年間にわたる遠隔授業に慣れたため、かつ教員側の動画等の教材提供の質も上がったためか、対面授業になっても遠隔授業の良いところを取り入れてほしいとの要望が目立った。例えば、授業資料の配布をMoodle上で行うか授業中に紙媒体で配布するかなどを選択できるようにしてほしい、学生側が対面授業と遠隔授業を選択できるようにしてほしいとの意見が見られたのは特徴的である。原則的に対面授業に戻ったとはいえ、2年間にわたる遠隔授業の実施により、学生らは遠隔授業の良さを取り入れた新たな対面授業を求めていると見てよい。しかし、学生間にもどのような資料媒体や授業形態を望むかは格差が大きいこともあり、新たな対面授業のイメージは一様ではない。

総じていえば、原則としての対面授業を展開する大学生生活に順応してきた／いる学生が多数を占める一方、メンタルヘルスに困難を感じている学生が引き続き一定数いること、またその原因の一つがコロナ禍であるかもしれないことに留意が必要であろう。

本稿では、(1) コロナ禍の学修面、及び、(2) コロナ禍の生活面について、全体の傾向を考察していく。

(1) コロナ禍の学修面について

授業方法については、6科目以上あった形式としては、「対面授業」が一番多く、これらは、原則対面授業になっている愛媛大学での必然的な結果といえる。一部の授業

では遠隔授業を行っているが、遠隔授業の中では、「Moodle を利用した非同期型授業（動画配信型）」が一番多く、「Zoom 等の同期型授業」は、9割近い学生が1科目未満と回答しており、遠隔授業導入で定着していたシステムが、今はほとんど使われていないことがうかがえる。

また、成績に関して、2回生以上の回答は、「昨年と変わらない」学生が4割を占めたが、変化があった学生の中では「成績が良くなった」学生（91人23.4%）より「悪くなった」学生（96人24.7%）の方がわずかながら多いという結果であった。特に、2回生と3回生でこの傾向が見られた。授業を受けていた気持ちとしては、「遠隔も対面も問題なく受けられた」とする回答326人（60.1%）が最も多く、さらに授業の理解度は「対面」が高いと回答した学生274人（46.4%）が最も多かったにもかかわらず、原則対面授業であった今年度に、成績が変わらない、または、成績が悪くなったことは何を意味するのかについては、今後さらに分析していきたい。

対面授業での利点（複数回答可）としては、回答者の5割以上にものぼる学生が「友人と一緒に授業を受けられ、授業や大学生活に関する情報を共有しやすくなった」を選んでおり、次いで4割が「生活にメリハリがつき、大学生活にやる気が出た」を選んでいる。まさに、原則として対面授業となった大学生活に、友人との関わりを重視する学生の喜びが伝わってくる。

一方で、対面授業を受けることで困ったことについては、「対面での授業が長く感じる」、「空コマや移動時間があるため、生活時間の融通が利かなくなった」と約4~5割もの学生が回答している。2年間の遠隔授業に慣れたからこそ、これらの対面授業のデメリットも感じている。実際、遠隔授業での利点（複数回答可）としては「自分の好きな時間や場所で受講できた」との回答が9割弱となり、自由に学修時間を決め、効率的に時間を使いたい学生の意識が浮き彫りになっている。さらに、遠隔授業について「良かったことはなかった」と回答した学生が1割以下（2.1%）であり、これは2021年度と同様の結果であった。今年度、遠隔授業を受けたほとんどすべての学生が、遠隔授業にメリットがあると感じている。

遠隔授業を受ける上で困ったこととして、5割弱の学生が「課題やレポート提出の回数が多い」と回答しており、この傾向は一昨年度や昨年度と同様である。授業ごとに課題レポートが出されることが多く、課題提出の締め切りに追われることは、ストレスになっている様子である。原則として対面授業になった今年度になっても、遠隔授業では課題の多さをストレスと感じる学生は、昨年までと同じ程度存在していることが興味深い。一方で、2020年度のアンケート結果では、遠隔授業について困ったことを尋ねた回答では「教員による説明が少なく授業内容を理解できなかったこと」をあげた者が半数近く（45.6%）もいたが、2021年度には2割（23.8%）に減少し、今

年度はさらに1割強（15.9%）に激減している。これらは、学生の慣れもあるが、大学および教員側が授業の質の向上等をはかり、遠隔授業の提供体制が整っていた結果と言ってよいだろう。

遠隔授業を受ける際には、通信機器が必要とされるが、「障害になることはなかった」と回答した学生が全体の7割程度にのぼり、大多数の学生は問題なく遠隔授業が受けられていたと推測される。しかし、通信上の障害があった学生のなかでは、いまだに「自宅の通信環境が整っていなかった（通信速度が遅い等も含む）」と回答した学生が遠隔授業を受ける際に障害があったとする学生144人中の5割いたことも留意すべきであろう。自宅の通信環境の困難さは、アンケート開始当時から3年にわたり変わっておらず、自宅の環境整備は学生のみへの責に帰すべきでないのではないかと。今後の詳しい分析と対応が必要であろう。

今年度の対面授業や遠隔授業を受けていた時の気持ちについては、「遠隔も対面も問題なく受けられた」学生が6割と一番多かったが、「遠隔で授業を受けるのは良く、対面がなかった」と回答した学生（20.1%）が、「遠隔で授業を受けるのはつらく、対面が良かった」と回答した学生（12.7%）を上回る結果になった。

学年別でのクロス集計結果では、1・2回生では、「遠隔で授業を受けるのは良く、対面がなかった」と回答した学生が多く、3・4回生では「遠隔で授業を受けるのはつらく、対面が良かった」と回答した学生が多かった（表1）。

この差異をどう読み解くべきであろうか。我々は、以下のように仮説を立てている。遠隔中心の授業を受けたことがある3・4回生は、2020年度から急きょ遠隔授業に切り替えられ、選択の余地なく自宅から一人で受講し、課題を提出せざるを得なかった辛い気持ちが反映されている可能性があるのではないかと。一方、1回生は、原則として対面授業しか経験しておらず、遠隔授業の経験がほとんどないか数少ないこと、さらに入学後1年目で大学生活そのものに慣れていないということから、大学の授業を対面で受講すること自体が予想以上にストレスになっているのではないだろうか。

また、授業の理解度については、学年別でみると、1回生のみ「どちらも変わらない」、「対面」、「遠隔」という理解度順であり、他の学年は、「対面」、「どちらも変わらない」、「遠隔」という理解度順となった。どの学年からも対面と遠隔では「対面」の方が理解できると考えている結果から、改めて対面授業は学修効果を少なくとも主観的には高める方式であることが確認されたといえよう。以上は仮説であり、今後、インタビュー等で生の声を聞くことにより、より詳しいアンケート結果の分析を進めていきたい。

フィールドワークや部活・サークル活動等の課外活動面については、活動した人中では、「学内（外）で知人・友人が増えた」と回答した学生が6割以上と一番多い。

次いで「身体を動かしたり、仲間と活動することができ、生活が楽しくなった」と回答した学生が多く、教室における講義以外の活動こそが、学生間の交友関係を広くし、大学生活を送る上でメリットと感じている学生が多いことが明らかになった。

(2) コロナ禍の生活面について

経済的な変化に関する質問では、「アルバイトに入る回数や時間に変化はなかった」が4割と一番多く、次いで「保護者からの仕送りに変化はなかった」という結果だった。2020年度は「アルバイトに入る回数や時間が減った」が約3割も存在し、2021年度は約2割に減り、今年度はさらに1割強まで減少した。この3年間で、学生のアルバイトによる経済的活動や保護者からの仕送りは、比較的安定してきている者が増えている。

また、メンタルヘルスに対する質問でも、一番多かった回答は「通常と変わらず安定的に過ごした」が約5割であり、2020年度の2割強、2021年度の3割から比較して、大きく回復している。コロナ禍での遠隔授業は、自宅にて一人で取り組み、また時期によっては外出を制限されることもあり、孤独になりがちでありメンタルヘルスの悪化が問題であったことから、改善の方向に向かっていることは喜ばしいことである。さらに「生活のリズムが崩れた」と回答した学生も2020年度6割弱、2021年度5割弱と学生の約半分が生活時間を規律することに困難を感じている様子だったが、今年度は1割未満と大幅に減少している。今年度は、原則対面授業に切り替わったことで、生活リズムが整ったとみることが出来よう。

しかし、回答者の3割以下の者ではあるものの「疲れた感じがした、または気力がなかった」、「気分が落ち込んだ」等、精神面での影響がみられる学生も引き続き一定数存在する。また、就職活動への影響を問う質問では、「自分以外の人の就活状況が分からず、不安になった」と回答した学生が5割弱もあり、次いで、「人と会う機会が減ったため、就職活動について相談する機会が減った」と回答した学生が3割強もいたことから、コロナ禍での就職活動では、精神的な負担を大きく感じていたことがわかる。さらに、医療機関の受診を問う回答にも、同様の傾向がみられる。8割強の学生が「受診していない」と回答したものの、「迷ったが受診しなかった」と「受診したことがある」を合わせると13.5%になる。昨年度同じ質問では、「迷ったが受診しなかった」と「受診したことがある」を合わせると19.1%であった。その割合は減少しているものの、学生生活に辛さを感じていた学生にとっては、対面授業に切り替わったからすぐに回復するというものではなく、長きにわたって精神面の支援が必要になっていることがわかる。

今年度に入ってからの生活への影響を問う自由記述として、対面授業開始時、感染

者増加時、夏季休業期間の回答（図26~28）では、対面授業が開始されたことを喜び、感染者増加により行動が制限されたことで怒りや意欲低下等の影響が一時的にあったが、夏休みには行動範囲が広がり有意義に過ごす傾向が見られた。長期化するコロナ禍で、感染者数の増減に一喜一憂し、社会や大学の対応に怒りを持ったり、また疲れを見せたりと、現代の大学生の気持ちが表れている。

最後に、大学教員への要望（図15）にもあったが、今年度から原則対面授業に切り替わったが、学生らは遠隔授業の良さを取り入れた新たな対面授業を求めているとあってよい。また、対面授業に即座に適応できない学生も一定数いることが分かった。今後は、アフターコロナの講義形態が、大きな課題の一つとなるだろう。

7. おわりに

今夏の第7波の感染爆発は秋になり鎮静化の傾向にあったが、収束の兆しが見えないまま、第8波に入ろうとしている（2022年11月末現在）。また、今冬は、新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの同時流行への懸念が高まってきており、感染防止対策を続けながらの教育が続いている。さきに述べたように、登校に不安感や抵抗感があり対面授業に適応できない学生も存在することから、ハイブリッド型教育を含め、今後の大学教育において、教育提供方法を考えていく時期なのかもしれない。そしてそれらは、教育の質の向上を進めることにもなるだろう。今後は、法文学部学生の、手記募集や座談会を開催し、学生・教員双方の生の声を収集・保存しつつ、他学部・他大学との比較検討もしていきたい。

謝辞

今回、アンケート調査に携わって頂きました法文学部の教員、ならびに回答頂きました学生の方々に感謝の意を表します。

また、この研究は、令和4年度法文学部戦略経費、令和4年度愛媛大学教育改革促進事業（愛大教育改革GP）及びJSPS 科研費19K21723の助成金交付により研究が遂行されたものです。

参考文献一覧

- ① 青木理奈・鈴木静・福井秀樹・小佐井良太・石坂晋哉「コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅰ—学生を対象としたアンケート調査の単純集計結果—」『愛媛大学法文学部論集第50号（社会科学編）』pp.37-68.2021年2月.
- ② 青木理奈・鈴木静・福井秀樹・小佐井良太・石坂晋哉・太田響子・池貞姫・十河宏行・中川未来「コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅳ—2021年度学生を対象としたアンケート調査の純集計結果—」『愛媛大学法文学部論集第52号』（社会科学編）pp.19-54.2022年2月.
- ③ 青木理奈・鈴木静・福井秀樹・小佐井良太・石坂晋哉「コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅲ—2020年度学生手記の分析—」『愛媛大学法文学部論集第51号』（社会科学編）pp.93-111.2021年9月.

- ④ 青木理奈・鈴木静・福井秀樹・小佐井良太・石坂晋哉・太田響子・池貞姫・十河宏行・中川未来「コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存VI—2021年度学生手記の分析—」『愛媛大学法文学部論集第53号』（社会科学編），pp. 37-57. 2022. 9月.
- ⑤ 青木理奈・鈴木静・福井秀樹・小佐井良太・石坂晋哉「コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存II—2020年度学生座談会報告書—」『愛媛大学法文学部論集第51号』（社会科学編），pp.117-138. 2021年9月.
- ⑥ 青木理奈・鈴木静・福井秀樹・小佐井良太・石坂晋哉・太田響子・池貞姫・十河宏行・中川未来「コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存V—2021年度学生座談会報告書—」『愛媛大学法文学部論集第53号』（社会科学編），pp. 133-150. 2022. 9月.
- ⑦ Murata, K, and Orito, Y. (2022) Student experiences during the COVID-19 pandemic: the case of Japanese higher education, In Ana María Lara Palma and Rafael Brotóns Cano (eds.), International Education Narratives: Transdisciplinary Educative Innovation Experiences Based on Bilingual Teaching, Universidad de Burgos, pp. 142-156
- ⑧ 折戸洋子、崔英靖、岡本隆、岡本直之、曾我亘由、橘恵昭「新型コロナウイルス感染症による大学生活への影響：大学生は Before コロナに戻るができるのか？」『愛媛大学社会共創学部紀要』第7巻第1号頁数未定、2023年3月公表予定

資料1. 【2022年度】コロナ禍における法文学部学生の学修・生活への影響アンケート

このアンケートは、法文学部戦略経費「コロナ禍における法文学部学生の被災記録の収集、保存—将来の災害に備えてのデータベース化と今後の課題—」の一環として、学生の学修・生活への影響をお聞きするものです。これは、学術目的の調査であり、後世に役立てるための記録として保存します。本調査の回答により収集された情報は、個人情報保護法にしたがって適切に管理されます。このアンケートは、原則匿名ですが、今後、手記を提供して下さる場合は、お名前と連絡先をお聞かせいたします。アンケート内容や個人情報の取り扱いなどに疑義がある場合は青木理奈（*****@ehime-u.ac.jp）にお問い合わせください。

本アンケート調査の回答にはおよそ5～10分かかります。ご協力の程、何卒よろしくお願ひいたします。

代表 青木理奈・鈴木 静

必須

1. あなたは次のどれに当てはまりますか。*
 - 一般学生
 - 社会人
 - 留学生
 - その他（自由記述）
2. 性別を教えてください。*
 - 男性
 - 女性
 - その他
3. 学年を教えてください。*
 - 学部1年生
 - 学部2年生
 - 学部3年生
 - 学部4年生以上
 - 大学院1年生
 - 大学院2年生以上
4. コース等を教えてください。*
 - 1回生昼間主
 - 1回生夜間主
 - 2回生以上昼間主：法学・政策学コース（総合政策学科を含む）
 - 2回生以上夜間主：法学・政策学コース（総合政策学科を含む）

コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅶ

- 2回生以上昼間主：人文学コース（人文学科を含む）
- 2回生以上夜間主：人文学コース（人文学科を含む）
- 2回生以上：グローバル・スタディーズコース
- 大学院（人文社会科学研究科法学コース・法文学研究科総合政策専攻）
- 大学院（人文社会科学研究科人文学コース・法文学研究科人文学専攻）

5. 2022年度前期の居住形態を教えてください。*

- 1人暮らし
- 実家暮らし、または家族と同居
- 学生寮
- その他（自由記述）

6. 通学の手段を教えてください。

- 公共交通機関（電車・バスなど）
- 徒歩
- 自転車
- バイク
- その他

7. 片道の通学時間を教えてください。

- 10分未満
- 10分以上30分未満
- 30分以上～1時間未満
- 1時間以上

残り20問です

【学修面】

この設問以降、2022（令和4）年度前期（1Q/2Q）における法文学部と共通教育の授業についてお聞きします。1科目の講義形態で、授業形態（対面・遠隔）が混在している科目の場合は、回数が多かった方を選択してください。

1. 対面での授業は何科目ありましたか。*

- 1科目
- 2～5科目
- 6科目以上
- なし

2. Zoom等の同期型授業は何科目ありましたか。*

- 1科目
- 2～5科目
- 6科目以上
- なし

3. Moodleを利用した動画配信型の非同期型授業は、何科目ありましたか。*

- 1科目
- 2～5科目
- 6科目以上
- なし

4. Moodleを利用した資料（PPTファイルやPDFファイル）のみの非同期型授業は、何科目ありましたか。*

- 1科目
- 2～5科目
- 6科目以上
- なし

5. 昨年までと比較して、前期の成績（単位取得数、評価）はいかがでしたか。*

- 1回生なので昨年と比べられない
- 昨年と比べて成績は良かった
- 昨年と比べて成績は変わらない
- 昨年と比べて成績は下がった
- 昨年と比べて履修した科目が少なくて比較できない
- その他：

6. 原則、対面授業を受けるようになって良かったことを教えてください（複数回答可）。*
- 生活にメリハリが付き、大学生活にやる気が出た
 - 友人と一緒に授業を受けられ、授業や大学生活に関する情報を共有しやすくなった
 - 課題の提出頻度が少なく、課題の提出期限や進捗を自己管理する負担が減った
 - 授業に集中して受講できる
 - 教員や他の学生への質問、意見交換、グループディスカッションがしやすい
 - 教員の顔・表情・声が分かり、教員に親近感もてた
 - オンライン授業に比べ、目が疲れない
 - 運動不足が解消された
 - その他（自由記述）
7. 原則、対面授業を受けるようになったことで困ったことを教えてください（複数回答可）。*
- 対面での授業が長く感じる
 - 毎日、通学することが体力的にしんどい
 - 移動に時間がかかり、面倒に感じる
 - 空コマや移動時間があるため、時間の融通が利かなくなった
 - 1日にオンラインと対面の講義が混在するため、受講環境やスケジュールの調整が難しくなった
 - 周囲の学生がうるさく感じる
 - 大学にあまり友人、知人が多くないため、孤独を感じる
 - グループディスカッションや討論が増え、負担を感じる
 - 資料や動画を繰り返し見ることができなくなり、勉強や復習がしにくくなった
 - 新型コロナウイルスの感染を不安に感じる
 - 講義内容の難易度が高すぎる
 - 教員が丁寧に対応してくれない、教員に質問しづらい
 - その他（自由記述）
8. 原則として対面授業になった状況で、大学や教員に希望することがあれば、自由にお書き下さい。（自由記述）
9. 遠隔授業を受ける上で、困ったことを教えてください（複数回答可）。*
- 大学や担当教員からの授業に関わる連絡が遅かった
 - 大学や担当教員からのメール連絡が頻繁であった
 - 授業科目により授業形態や教材提供方法が異なり、分りにくかった
 - 教材の提供が不十分で、授業内容を理解できなかった
 - 教員による説明が少なく、授業内容を理解できなかった
 - 課題やレポートの書き方が分らなかつた
 - 課題やレポート提出の回数が多かった
 - 複数の科目の課題やレポート提出日が重なった
 - 科目教員と連絡がつかなかつた / つきにくかつた
 - 課題の提出状況を確認できなかった
 - 非同期の講義はいつでも受講できるため後回しになり、やる気が起きなかつた
 - 長時間の学修により、目や肩が疲れ、体調が悪くなった
 - 通信環境の関係で、同期型の授業受信が不安定だった
 - 困ったことはなかつた
 - 遠隔授業がなかつた
 - その他（自由記述）
10. 遠隔授業を受ける上で、良かったことがあれば教えてください（複数回答可）。*
- 自分の好きな時間や場所で受講できた
 - 動画配信型の教材を繰り返し視聴できた
 - 教員に質問できた
 - 通学時間がなかつた
 - 1人で勉強する方が落ち着く
 - 良かったことはなかつた
 - 遠隔授業がなかつた
 - その他（自由記述）
11. 遠隔授業を受ける上で障害になっていたことはどのようなことですか（複数回答可）。*
- 自分のパソコン（スマホ、タブレット含む）がなかつた
 - 自分のパソコン（スマホ、タブレット含む）の性能が低かつた
 - 自宅の通信環境が整っていなかつた（通信速度が遅い等も含む）
 - 自分1人になれる部屋（環境）がなかつた

コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅶ

- Moodle などの操作方法がわからなかった
- 特になし
- 遠隔授業がなかった
- その他（自由記述）

12. 対面授業や遠隔授業について、あなたの考えに近いものを教えてください。*

- 遠隔も対面も問題なく受けられた
- 遠隔で授業を受けるのはつらく、対面が良かった
- 遠隔で授業を受けるのは良く、対面がなかった
- 遠隔も対面も両方良かった
- 遠隔授業がなかった

13. 全体的に授業の理解度に関して、遠隔と対面のどちらのほうがよかったですか。

- 対面
- 遠隔
- どちらも変わらない

残り8問です

【課外活動面】

フィールドワークが可能になったり、部活・サークル活動が活発化したことについてお聞きます。

1. フィールドワークや部活・サークル活動において、どのような影響がありましたか（複数回答可）。

- 学内（外）で知人・友人が増えた
- 身体を動かしたり、仲間と活動することができ、生活が楽しくなった
- 学業以外で打ち込むことが見つかった
- 人間関係の煩わしさが増えた
- 活動に時間をとられ、学業との両立が難しくなった
- 特に変わらない
- フィールドワークを行わなかった、または、部活・サークルに所属していない
- その他（自由記入）

【生活面】

2022年4月以降、長期化するコロナ禍での生活面についてお聞きます

1. 2022年4月以降も感染拡大の波がある中で、どのような経済的な影響がありましたか（複数回答可）。*

- アルバイトに入る回数や時間に変化はなかった
- アルバイトに入る回数や時間が減った
- アルバイトに入る回数や時間が増えた
- アルバイト先が休業したり、雇止めにあった
- 新たにアルバイトを始めた
- 保護者からの仕送りに変化はなかった
- 保護者からの仕送り額が減った
- 保護者からの仕送りがなくなった
- 保護者からの仕送り額が増えた
- その他（自由記述）

2. 就職活動（インターンシップは除く）にどのような影響がありましたか（複数回答可）。*

- 4年生以上ではない、または就職活動はしていない
- 就職活動に影響はなかった
- 自分以外の人の就活状況がわからず、不安になった
- 人と会う機会が減ったため、就職活動について相談する機会が減った
- 選考がオンライン化され、交通費がかからず、地理的に遠い会社も選択肢に入れることができた
- 選考がオンライン化され、採用担当者や企業のことがあまりよくわからなかった
- 志望業界を見直した（変更した）
- 希望していた企業や自治体の応募を諦めた
- 就職活動をやめた
- その他（自由記述）

3. 原則、対面授業になって、メンタルヘルスにどのような変化がありましたか（複数回答可）。*

- 通常と変わらず、安定的に過ごした
- コミュニケーションが活発になり、楽しくなった
- 身体を動かすことによって、体調が良くなった、健康になった
- 物事に対してほとんど興味が無くなった、楽しめなかった

- 気分が落ち込んだ
- 寝つきが悪くなった、途中で目が覚めた、反対に眠り過ぎた
- 疲れた感じがした、または気力がなかった
- 食欲がなかった、あるいは食べ過ぎた
- 新聞やテレビを見ることなどに集中することが難しかった
- 生活のリズムが崩れた
- その他（自由記述）

4. 長期化するコロナ禍でのメンタル不調により、2022年4月以降、医療機関やカウンセリングに行きましたか（無回答可）。

- 受診した
- 受診していない
- 迷ったが受診しなかった
- その他（自由記述）

5. 2022年4月以降、原則対面授業になり、あなたの生活に、どのような影響がありましたか。自由にお書きください。

6. 原則対面授業が続く中、行動制限はないものの、新型コロナウイルス感染者数が増加した時期もありました。このことによって、あなたの生活に、どのような影響がありましたか。自由にお書きください。

7. 2022年の夏休みは、行動制限はありませんでしたが、このことによって、あなたの夏季休業期間での生活においてどのような影響がありましたか。自由にお書きください。

【追加で協力して頂ける方】謝礼：クオカード3,000円

本プロジェクトでは、学生の皆さんにコロナ禍での大学生活の記録を手記としてまとめていただきたいと希望しています。手記の締め切りは11月末日で、1,200字程度です。手記をお寄せいただいた方には、謝礼（クオカード3,000円分）をお渡しします。お引き受けくださる方は、青木と鈴木（下記の宛先）までメールにてご連絡ください。連絡頂いた学生さんには、青木から依頼のメールを致します。

宛先：青木理奈：*****@chime-u.ac.jp、鈴木静：*****@chime-u.ac.jp

件名：「コロナ禍における法文学部学生の手記について」

本文：お名前をフルネームで書いてください。

こちらから連絡しても良いメールアドレスを正しく書いてください。以上です。

質問は以上です。ご回答ありがとうございます。

資料2. 原則として対面授業になった状況で、大学や教員に希望することがあれば、自由にお書き下さい。に対する全回答（自由記述）

原則対面ではなく、これからも必要に応じて遠隔授業を組み込んでほしい。特に非同同期型は、移動時間が減ったり、スケジュールを柔軟に組めたり、マイペースに授業に取り組める点が良かった。
活発な議論のために自由席にしてほしい。
マイクの音量が小さくて聞こえなかったり、一番前のスクリーンにのみ映像を写し後方の学生が困っているため配慮してほしい。
3回生です。 今までの僕たちの時間を返してください。
配信を必ずすること。YouTubeにて残してくれると復習にもなるし、感染しただけでなく女性なりの生理痛などで本当に行けない場合などに役立つと感じる。
特に3回生は入学時からオンライン授業であったため、それが大学生活の日常であったのに、急に今までの当たり前を押し付けられて苦痛でしかないです。対面授業が強要されて、しんどいです。3回生の前期で初めて全授業を対面で受けることになり、もちろん対面でテストを受けることも初めてであったのに、学生の不安などを気にかけてくれる様子もなかったです。（一部、優しい先生もいましたが。）遠隔を選ぶことができない、選択肢がないのが学生の気持ちに寄り添って来ていないなと強く感じています。大学生活が早く終わればいいのにと常に思っています。
このまま継続を望みます。
講義内で使う資料はMoodleに up してもらいたい。
講義の開始時・終了時などに机をアルコール消毒で除菌するよう生徒に呼び掛けるなど、感染対策をして欲しい。 また、対面での質問方法だけではなく、Moodle3.5に質問フォーラム等を常設するなど、遠隔でも質問が行いやすい環境を整えて欲しい。
資料等はできるだけmoodle上にアップしてほしい。

コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅶ

眠気の解消とやる気の向上のために、授業の合間に2、3分以上の休憩を入れて欲しい。
履修登録の際は非同期と書いてあったものが、登録後に対面になったことがあったため、早めに方針を固めて欲しい。
現在は専門教育科目のほとんどが対面で、共通教育のほとんどがMoodleによる非同期遠隔の授業なので不自由はない。しかし、対面と zoom などの同期遠隔の授業が連続した場合、家に帰って受ける余裕はなく、zoom で発言を求められても応えられる場所がありませんので、発言の必要がある同期遠隔の授業はなるべくしないほしい。
授業で使用したスライドや資料は Moodle 等にアップロードしてほしいです。
遠隔とのハイブリッド型式にして欲しい。
教室の受け入れ人数と授業の受講人数が合っていない授業が多く、感染対策の面で気を遣っていないように感じた。
この時期はエアコン無しで快適に過ごせる反面、閉め切った教室はまだ暑く授業に集中できないと感じるので窓を開けてもらいたい。
冷暖房があるかもしれないが、コロナ対策として窓は開けて欲しい。
課題のウエイトが重い。
グループワークで学生同士の討論の機会を増やしてほしいです。
口頭での質問や討論をしない授業では対面授業をしてほしくありません。
レジュメは配布してほしい。
わたしはもともとどうつなでそうといった理由で授業に出られない学生に対してもこの機会にサポートをつくってほしい。
もう少しグループワークを増やしてほしい。会話を活発にしてほしい。
対面授業の方が友達と会える楽しみもあるし、勉強のモチベもアップするが、遠隔授業の動画を何回も見返せる勉強方法が意外とありがたかったことに気づいた。
まだ完全にコロナ禍が収まったとはいえない状況の中で、対面でするならば、対面でしかできないような、雑談を踏まえた教授との繋がりがとか、他の生徒とのコミュニケーションをとれるグループワークなどをしてほしい。
前期はそれらがほとんどなく、遠隔のまま良かった。
出席のシステムをもっとやりやすくしてほしいです。
紙と PDF、レジュメを選べるようにしてほしい。
対面授業だけでなく、オンライン授業も選択できるシステムも継続していただけると有難いです。
日中働いているが非同期型オンライン授業のおかげで昼間開講の講義を受けられている。社会人学生にとって夜間開講の共通教育科目は非常に選択の幅が狭く、その点オンライン授業では時間の制約がなく受講しやすい。共通教育科目ではこのような形態を継続する意義があると思う。
その時にきちんと聞き取れなかったり、1回聞いただけで全てを理解する事はできないので、何度も復習できるように音声だけでもいいし、期間1週間でもいいから moodle に授業を残して欲しい。
講義資料を Moodle で閲覧できるようにしてほしい。
出席による問題があるのであればパスワードなどにして講義に出た人のみ見れる形式でも構わない。
我儘ではありますが、資料が事前にアップロードされる環境に慣れてしまっているため全ての授業で持っていて頂けると大変ありがたいです。
授業の合間に休憩を挟んでほしい。
対面授業を受けたあとに家に帰ってからムードルで出席入力をさせる、という手法はやめてほしいです。ムードルで出席管理をするにしても、授業内で生徒にスマホや PC でムードルの操作をさせてください。授業にせっかく出たのに、家に帰ってからムードルを開くのを忘れて欠席になってしまったことが何度かあったため。
気軽に声を出して ZOOM で会議ができる場所が大学に欲しい。
ムードルで授業内容を確認できるようにしてほしい。
話すスピードが遅すぎたり、レジュメの内容を読み上げるだけの授業は大変面白くなく、モチベーションを得られないためやめて頂きたいです。
正当な理由で已む無く欠席をした場合に後から授業の動画が見られるようにしてほしい。
空調をその場その場であった温度設定や換気を行って頂きたいです。
対面授業と非同期の授業を両立させて、選択できるようにしてほしい。
授業で使う教室のキャバを事前に詳細に把握して、ゆとりを持った教室を抑えてほしい。
対面授業を中心としつつ、資料などの形で復習ができるようにしてほしい。

マスクの着用を統一してほしい。
できる限り対面授業を続けてほしい。
話を聞くだけの授業なら対面でなくても良いと思う。
希望者には非同期型、同期型問わず遠隔で受講できるようにしてほしいです。
出席しているのに、帰宅してからの課題を提出しないと出席が認められないというのはおかしいと感じた。出席していない人でも、その課題を提出さえすれば出席扱いになることがあるのは不平等だ。出席を取るのであれば授業の場でやってもらう、または出席と課題の評価を分けるなど対策をとってほしい。
空席を作らなければならないのが憂鬱。
換気してください。
このまま続けてほしい。
宿題無くしてほしい。
オンライン講義が始まって紙資料が少なくなったという利点があったが、対面になって紙資料が配られるようになったのはあまり好ましくないと考えている。
テスト範囲などはしっかりと授業内で提示してほしい。
とにかく、事務職員の半数以上は、仕事を遊び半分でしている。特に若い女性がひどい。
大人数の授業はもっと広い教室にしてほしい。
原則対面なのに、ズームにする先生がいて、オンラインにしないでほしい。

資料3. 「2022年4月以降、原則対面授業になり、あなたの生活に、どのような影響がありましたか。自由にお書きください。」に対する全回答（自由記述）

人と直接会ったり移動したりするのが無駄に思えた。対面授業だとそれが毎週あるので、苦痛だった。
生活のリズムが整った。運動する機会が増えた。オンライン形式より授業前の準備時間が長くなった。
友達と気軽に会える機会が去年より多くなった。
友人が増えて、大学生活が楽しくなった。
授業に合わせて早起きするようになった。
人間関係の悩みが生まれた。
今までの2年間、大学は自分たちの権利とかけがえのない時間を奪っていたということに気づいた。
対面授業でディスカッションや発表など、遠隔授業でやり過ごしていたものと直面して、自分の無能さを感じ、退学するかどうか悩んだ。
外へ出る機会が増えたことで、気持ちが明るくなった。
対面が増えて、両立が難しくなっていった。
学業に前向きになった。
対面では、通学がめんどくさいと感じる。
急に生活が変わり、精神的にも身体的にも苦しかったです。遠隔授業で十分学べるにもかかわらず、対面で授業する意味があるのかと疑問でした。対面授業も経験して、効率が悪いと思いました。人によって対面、遠隔のどちらがいいかは分かると思うので、選択できる仕組みであればよかったのになと思っています。(期待は全くしていませんが。)
小課題が少なくなり活力が生まれた。
アルバイトに入れる時間が減り、教科書代や国民年金のやり繰りが大変になった。
家が遠いため、通常は授業開始の1時間前に家を出るのだが、少しでも電車が遅延していたりしていると遅刻する。天気が悪い日などは授業開始の1時間半～2時間前に家を出ることもあったが、それでも遅刻してしまう日もあり、自分は時間を考えて余裕を持って行動しているし頑張っているのに、それを周囲に理解してもらえないのがしんどかった。
自由な時間に受講出来るわけではないため生活リズムの見直しから食事の時間まで大きく変わった。
不規則な生活習慣になった。

コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅶ

授業を入れる時間にもよるが比較的生活リズムの良い生活をする事が出来た。しかし、私の場合夜間主なので夕食を食べる時間が以前より遅くなる事が多くなった。
バイト先と大学と家との行き来が大変。
食事代や、ガソリン代など費用が増えた。学校に行くのが面倒に感じる事がおこなった。身だしなみに気を付けるようになった。
友人関係等楽しくはなりましたが1倍速の世界だと、どうしても授業が長く感じてしまいます。また、通学も楽ではなく、たまに本気で疲れて何もしたくない日が生まれました。しかし、これも今まではあたり前にこなしていたことなので日々の積み重ねで回復していくと考えます。また、通学も楽ではなく、たまに本気で疲れて何もしたくない日が生まれました。しかし、これも今まではあたり前にこなしていたことなので日々の積み重ねで回復していくと考えます。
毎日決まった時間に授業に行くため、生活のリズムが定まった。
対面となった講義では学校に行かざるを得ず、コロナ感染の不安を覚えていた。また、通学の負担が増えた。
大学に行くための準備や通うために時間がかかるため睡眠時間などの自由のできる時間が減った。
友達が増えた。
大学に行くための通学時間の確保が必要なため、時間が減ったように感じた。
人と会うことが多くなった。
サークル活動がしんどくて何もやる気が出なことがあった時期に、対面の出席確認があるのが大変だった。
それまでの2年間ずっとオンラインだったので対面授業に出る体力が無く、今期の履修科目数は減ったにも関わらず、それまでオンラインでフルで履修していたときと同じくらいの疲労度だった。
総じて良い影響があったのではと思います。無理矢理にでも学校へ行かなければならないので、生活リズムが整ったのは特に良い影響でした。
空きコマに自習室で資格勉強をするようになり、定期的に勉強する機会を設けることができています。また、授業で友達がたくさんでき、大学に行くのが毎朝楽しみになった。朝起きて洗濯物を干してきちんとご飯を食べて大学に行くというルーティーンがあまり負担なく確立された。
授業時間が定まるようになったので比較的朝早く起きるようになった。
周りの人の声が煩わしく、苛立つことが多くなり、大変だった。
入学してからずっとコロナの学年なので、対面で人と関わったり、同年代の雰囲気を感じることで、大学生という自覚がようやく持てた。
先生や友人と会う機会が増えて嬉しい。
生活習慣がよくなった。
対面が増え生活が規則正しくなった。
移動の時間をしっかりと計画する必要が出た。
規則正しい生活に変化した。
生活リズムが改善された。
生活リズムが良くなったが、室内屋外と行き来をするなかで気温の差が大きく、体調が悪くなるときがあった。
友達が増えて楽しいが、移動が多くなり授業時間が増えることで疲れてしまう自分の時間があまり持てなくなった。
1週間毎日外に出るので、生活のリズムを確定できるようになった。
対面授業になってから、体力的に苦しい部分も多くあったが、授業をより集中して聞くことができ、理解が深まった。
友達が増えた。
通学のため早起きするようになった。
ほぼ毎日学校に行くようになり、生活リズムが整い、心も体も健康になったと感じる。
朝はやめに起きるようになった。また、夜はやめに寝ようと努力するようになった。
非常に忘れっぽいので、数回だけ対面の授業があると行き忘れてしまい泣いた。対面授業自体はとても楽しい。
移動時間や準備時間に時間を割かねばならなくなり、一日の間で不自由な時間が増えた。
アルバイトに入れる日数が減った。
勉強へのやる気は出た一方、5月病のような気分の落ち込みがあり、支障をきたした。
時間の制約ができて、不便になりました。

話せるような友達がいなくて、授業に出ている学生との間で比較し、孤独を感じて落ち込むことが増えた。
友達と話す機会が増え、そのおかげで友達の友達と仲良くなることができ、交友関係を広げることができた。
人間らしい生活をするようになった。起床後服を着替えるなど。
必然的に外に出る機会が増えたので、気分が良かったり、一日が充実していたなと思える日が増えた。
友人との関係が深まった。
感染することに不安はありましたが、割り切って出席しました。
人と話したり外に出る機会が増え、朝ちゃんと起きるようになった。一方授業が朝から、サークル活動は夜という感じだったので睡眠障害に近い症状が出た。
行動範囲が増えた。
以前より早起きするようになった。
移動時間が増えた。 起きる時間が早くなった。
必然的に外に出るので、健康にいいと感じました。
対面になったのはいいものの、思い描いていた大学生生活とは全く違い、絶望している。 一年生の時の遠隔はやっぱり辛かったなと改めて思った。
時間の融通が利かなくなったため、趣味に割いていた時間が減った。
一年生なので最初から対面授業だった。高校までは非同期遠隔という形態がなかったので新鮮だった。
講義に合わせた生活習慣になった。
外に出る回数が増えた。
睡眠時間を確保することが難しくなった。
自分時間でスケジュールリングするのではなく、授業があって、空きコマがあって、どのように大学での時間を過ごすかというスケジュールリングに切り替わった。
友達作りに積極的でないため、友達ができず、3年後期のためこれからも可能性は低い。
授業数は少ないが、1回生の頃に戻ったなという実感があり、授業も楽しく感じた。
授業が全部対面になり、ほぼ毎日大学に行くようになった。遠隔授業だけだと一日中家から出ないこともあったが、対面になってから外に出ることが多くなり、多少健康的な生活になった。人と関わることも増え、新しい友達もできた。でも急に対面ばかりになって、前期は授業をサボってしまうことも少なくなかった。
体的にも時間的にも、圧倒的にオンライン授業の方が楽なのは間違いない。そして何度も見直し復習ができる点でとても助かった。対面だと一度つまずくと巻き返しを図るのがとても困難だと感じる。対面が向いている授業（ディスカッションなど）であればその限りでないが、一方的な授業形式だとオンライン形式を継続してほしいと思うことが多い。
忙しくなった。
熱中している部活に割く時間が削減した。
朝が辛い時がある。
友人がいなくて対面授業が嫌に感じた。
外出機会が増えた。
講義のために大学に行くことが増え始めたので、1、2回生では利用の仕方がわからなかった、利用ができなかった施設（図書館など）を、積極的に使うようになった。
睡眠時間が減った。自分に使える時間が減った。
普段遠隔だったコマが対面になり生活リズムが少し崩れた。
対面授業での生活リズムに体が追いつかない時期があった。
家で作りたてのご飯を食べることができず、学食は人が多く、並ぶのに時間後から早く食べなければならないという意識がありゆっくり食べられない。
早起きするようになった。
実家暮らしであるため、一限の授業に行く際に早起きをしなければならず、朝がしんどかった。
遠隔メインの生活の時と同様に部活動とアルバイト、学業の両立にチャレンジしたが思っていたより体力的な負担が大きかった。

コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅶ

対面授業は時間を縛られるため、アルバイトのシフトに自由が利かなくなった。
人が多くて疲れた。オンライン授業ばかりも嫌だけど、週何回かは対面授業だけでなく、オンライン授業もあった方がメリハリがつく。
自由時間は減ったがとても充実していると感じている。
人と会う機会が増え、楽しくなった。
自転車通学のため、体力が回復した。また早起きするようになった。
移動に時間がかかるため早起きしなければいけない、授業のためにかける時間が増えるなど負担が増えた。
遠隔授業に慣れていたこともあり、疲れやすかったです。
人と会う機会が増えて、活動が活発になった。
人と会う機会が増えて刺激が増えた。
友達とよく会うようになった。
自由な時間が増えた。
生活リズムを保ちやすくなった。
生活リズムがくるっていたので遅刻ばかりしてしまう、授業に出れないこともある。でもやっぱり他人と会える方が楽しいので好きです。
旅行に行く頻度が増え、生活全体のモチベーションが上がった。
規則正しい生活になった。
授業出席のために早起きするのが辛かった。
今までと変わらず、過ごすことができた。
外出機会が増えた。
コミュニケーションが増えた。
食品が高騰してきてお金を稼がなければならないが、バイトに入れる回数が減り、収入が減ってしまった。対面授業でもオンライン上でコメントを求める授業が多く、課題の量が変わらないまま対面授業が増えた感じで毎日が忙しく感じる。
いきなり全て対面授業になったので、ストレスを感じた。
学校に行く準備をしなければいけないから、時間がかかるので、ぎりぎりまでの予定はいれられなくなった。
毎日学校に通うことで、生活のリズムが安定した。
私生活にメリハリがついた反面、洗濯、入浴など対面で欠かせない作業が増えたのでめんどくさくなった。
外に出る時間が増えた。
電車が負担になった。
生活リズムが変わった。早起きができず遅刻してしまうことも多くなった。人間関係が授業を通して生まれることはそこまでなかった。
1回生なので比較できないが授業に赴くことと非同期の遠隔授業の差異が難しかった。
友達との時間が増えてとても楽しかったです。
マイナスの気持ちになることが増えた。
「自分は過年度生である」という罪悪感から他人の目が非常に気になった。
通学で利用している電車やバスでのコロナ感染の不安が増加した。
遠隔の方が楽ではあった。まあ一長一短というところか。
就職活動と授業との両立が難しかった。
夜間主コースなので仕方ないのですが、7限を取ることで寝る時間が遅くなり、持病のうつが悪化しました。
楽しい。
通学の大変さはあるものの、より能動的に授業に取り組めるようになった。
基本的に対面である必要があるとは感じない。仕事も完全在宅でしているため、遠隔でできることはこのコロナ禍でわかったと思うが、結局対面のほうがいいと戻り始めたのは非効率的だと感じる。夜間主は前期は非同期型が多く、良かったが、後期になってから対面型が増え、実際に受講してもやはりどうしても対面である必要性を感じられていない。体力的にも疲れる&気疲れをしてしまうので、遠隔に戻してほしい。

友人と簡単に会うことができるようになり嬉しく感じるとともに、大人数での講義に慣かしさと遠隔授業の2年間をもった なく感じた。
少し通学する手間がかかることが面倒に感じた。
生活リズムを整えるきっかけになった。
友達ができて、とても充実している。
人と関わる機会が増えたので知り合いが増えた。
疲れが増えた。
生活リズムが整った。
勉強時間が多くなった。
ある程度規則的な生活を送る事になった点と、外に出る＝陽の光を浴びて体を動かす機会が増えた点、対面して他者とコミュ ニケーションを取る機会が増えた点から、身体的にもメンタル的にも健康になったように感じる。また、パソコン画面を見る 時間が減ったため、眼精疲労とそこから来る頭痛や、取れにくいタイプの疲労が溜まる機会が少なくなったように思う。
友達と受けることができて楽しかった。初めて話す人との交流もできて面白かった。
通勤費と通勤時間がかかって通常よりお金や時間がかかるようになった。
オンライン形式の授業時と比べ、学習意欲をより持てるようになった。一方で久しぶりに対面授業に参加した際に、緊張を覚 えることがあった。
友達と頻繁に会えるようになって楽しかった。
移動に費やす時間が増加したため、自由に過ごす時間が減少した。
友達が作りやすく、毎日の学校生活が充実した。
ほとんど毎日、朝から夜まで大学のために外出するようになった。
毎日学校に行くようになったので、授業を好きな時間に受けることができなくなり、バイトの時間や就寝時間が固定化され た。
友人と空きコマに談笑できることが楽しいので大学に行くのが楽しい。 授業で分からなかったところを友人や先生にすぐ聞ける。
外に出て大学の活気を感じるだけで人間として生きていることを感じた。
人と会えるのが、楽しかった。けど、原則対面になった段階では、ほとんどの授業を取り終えていた。
一年生のときと比べてアルバイトのシフトが組みにくくなりました。
自由時間が少なくなり、趣味にかける時間が少なくなった。
アルバイトをする時間帯が変わった。
友人と昼ごはんが食べられた。
原則遠隔授業だった時に比べて、生活のリズムが乱れにくくなった。友人と会う機会が増えたため、友人と雑談や相談をする 機会も増え、不安や寂しさを感じるものが減った。
生活に規則性が生まれ、体調がよくなった。
友人がでさず1人で講義を受けていることに孤独や不便さを感じることもある。
今年度入学のため以前のことはわかりませんが、入学当初から対面授業が行われていたことで講義などで友人を作ることがで き、わからないことを抱え込むことなく相談できたり、顔を合わせて会話が出来たりと充実した大学生活ができています。

資料4.「原則対面授業が続く中、行動制限はないものの、新型コロナウイルス感染者数が増加した時期もありました。このこ
とによって、あなたの生活に、どのような影響がありましたか。自由にお書きください。」に対する全回答（自由記述）

県外に数日間旅行に行った友達と授業で会うのかもしれないと思うと、少し戸惑った。
仕方ないことではあるが、サークル活動が度々停止し、練習時間が減ってしまった。
遊びに行ったりしたいが、少しコロナが心配で遊びに行くのを自重した。
店に立ち寄らずに家に直帰。
対面授業が不安だった。

コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅶ

授業のない日には極力外出を控えるようになった。
親が介護職であるため、感染者が増えると気をつけて生活するようになった。
人混みを避けた。
人と距離をとって話そうとした。
コロナに罹るかもしれないという不安が少しあった。
授業中、人と至近距離になること、特に他の学生と前後の席に着席するのが不安だった。
実家暮らし、親の職業柄、生徒である私が家にコロナウイルスを持ち込むことは非常に問題であり、大学に入学して以来、細心の注意を払い続けた。結果として今まで未感染であるが、代わりに旅行や飲み会などに参加できず辛い思いをした経験が多くなった。
できるだけ家に居たいと思った。
旅行などの計画を取りやめなければならないことがあった。
インターン参加できるかどうか不安にはなったが結果として影響はなかった。
飲みに行く機会が減り肝機能の数値がよかった。
感染者が増えても授業は対面のままで進んだのに対し、サークル活動については活動条件を緩和するどころか、「今1度サークル内でルールを確認するため」という理由で、対面活動を停止されることもあった。今は、活動停止は妥当な指示だったと思うようにしているが、当時は大会出場を控えていたこともあって、授業とサークルの対応の差に多少の憤りを感じていた。
特にごさいません。ただ、両親に外出を自粛しろと口うるさく伝えられていたのは事実です。実際それによって外出もそこまでしておりませんでしたし、そういった意味では私の生活に大きく影響を及ぼしていたと思います。
バイト先の人々が感染者になってそのために濃厚接触者になってしまい、サークル活動全体が止まってしまったことがあった。全体に影響を及ぼしてしまったのが精神的に辛く感じたことがあった。
特段の変化はなかった。如果说えれば所属しているサークルが陽性者の発生により、活動が一時停止したため一時期運動時間を確保する機会が減ったことが挙げられる。
外出がためらわれた。
もし自分が感染したら愛大生なのにと非難されないかと心配だった。また、対面での部活動が制限されないか気を揉んでいた。
感染の可能性について精神的に不安になった。
人と会わなくなった。
感染者数の増加に伴って不安はとても大きかったので外出を減らした。
コロナになるのが心配だった。
飲食店のアルバイトが一切入れなくなったので困った。
サークルのコンサートの開催ができるか否かでスケジュールが定まらず、煩わしかった。
外出を控えて感染対策になる行動をとった。
実家が自営業であるため、一人でも感染すると家業に影響が出ることから、「絶対に感染してはならない」という恐怖があり、気疲れすることが多かった。
部活に規制がかかった。
サークル活動の自由が制限され、その影響で勉強へのやる気等にも支障がかなり出た。
ゼミでの食事が中止になった。
外出がしづらくなっていた。
外出特に飲食は全て控えました。
より一層、感染対策を徹底した。
行動制限はなかったけれど、外出はほとんどしなかった。
サークル活動を維持するために、会食やカラオケなどの娯楽が制限された。その時期は鬱気味だった。
長時間や大人数の食事やカラオケの制限が多少あります。
もう諦めた。

授業が終了したらすぐに帰宅するようになった。
バイト先の客が減った。忙しくなくて助かったが、居酒屋系の飲食店のため感染への不安もあった。
授業はあるのにサークルはできないという状況が生まれた。
アルバイト先の飲食店のお客さんが減って、バイトが休みになることが増えた。
仕事が繁忙を極めていた。
週末などに実家に帰ることがよくあるので、講義以外の外出はほとんどしないようにしていた。
普段関わりのある人が新型コロナウイルスに感染することが増えたように感じる。
部活動に関してはまだまだコロナ前より制約があり自由度が低い。日常生活と近い制約に変更して頂きたい。
自分も感染したことでアルバイトに行けず、収入がない時期があった。
対面授業に行くことが不安だった。(怖かった。)
サークルの制限はかけられ、ほぼ活動出来なかった。
アルバイト先の関係で、感染対策に気を使わなければならなかったことが個人的に大変でした。
密閉されていないものの、同室にて講義を受けることになるため、特に長期休み明けは感染しないか心配だった。
飲食店などに行く時に気をつけた。
旅行を自粛する事があった。
授業対面なのにサークルや部活はありませんという状況に不満を持つ学生が多数見られた。
感染者増加によりサークル活動がほとんど制限された。
自分も一回かかってしまったのですがまあもう仕方ないかなの結論に至りました。
コロナに感染し、2週間の自粛生活を強いられた。
コロナウイルスによって外出することに抵抗があり、友人と遊びに行く回数が減少した。
外出自粛。
旅行等を控えるようにした。
外出する機会が減少した。
サークルがなかなか再開せず、参加できない状態が続いてタイミングがつかめなかった。
授業は対面で実施されているのに、サークルの活動を止められ、長い間サークル活動が出来なくて悲しい思いをした。周りの友達にコロナにかかった人や濃厚接触者になってしまった人が増えて授業と一緒に受けることができない友達がいてかわいそうに感じた。
1年次に授業がほとんど遠隔でサークルも動いておらず、今更動かれてももう手遅れという感じになっている。
対面授業を受けるのが不安だった。 でも、大学は強行して授業を行った。
学校に行く以外はどこにもいけないと思った。
外食を控えた。
感染のリスクを不安視しながら学校生活を送っていた。
家族からの心配の声が大きかった。
自分自身は感染することはなかったが、バイト先の同僚や地元の家族などは感染しており、少し怖いと感じた。
遊ぶのを控えるようになりました。
受講者数の多い授業はコロナ感染の不安があった。
大学があり松山に出てくるので、交通費分のもとを取るためにバイトをしようという気持ちになりました。
友人が感染したことでより一層危機感を持った。
手洗い・うがいなどの対策を心掛けるようになった。
サークル活動が突然停止になったり、対面の授業を受けに行くのに体調面や感染面で不安を感じる事があった。
食堂や外でご飯を食べることに抵抗があり、昼休みが少し辛かった。
急にサークルが止まってつらかった。隣や他の大学は普通にしているのにもかかわらず。

コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅶ

コロナ対策を気にして十分に楽しめないことがあった。
気持ちが閉鎖的になった。
外出の回数が減った。
特に不便は感じないが、感染拡大について大学から行動を規制することを言っていたことが社会の傾向と違うため理解に悩んだ。
自分が感染者になり、授業に出席出来ないのではないかと不安があった。
身近な人に感染者が発生し、危機感を感じていた。
自由に出かけにくい状況の時があり、不便を感じた。
外食を控えた。
消毒や換気など感染対策が取れていると感じたし、先生も生徒も気にかけていると思う。
感染予防を徹底した。
行動範囲が狭くなった。
マスクを外せなくなった。
特にない。バイトのシフトに入りづらくなるくらい。
受講者が多い授業は特にコロナウイルスが気になってしまい教室の使用が嫌でした。前の授業で少し前まで他の人が利用していたと考えるとすぐには先につきたくなかったです。
感染が心配で、サークル活動への参加を控えようか悩んだことがあった。
感染対策に敏感になった。
自分自身は特に感染や濃厚接触はありませんでしたが、家族や学内の知人、また普段から応援しているアーティストやアイドル等が感染・濃厚接触者になることがあり、大きく不安になりました。

資料5「2022年の夏休みは、行動制限はありませんでしたが、このことによって、あなたの夏季休業期間での生活においてどのような影響がありましたか。自由にお書きください。」に対する全回答（自由記述）

行動制限がなかったためか、新型コロナウイルスに感染した。
去年よりどこかに出かけることが多くなり、気分転換がしやすくなった。
2年間大人数が集まりイベントに参加できていなかったが、参加できた。
時々友人にあったほほ家に行った。
帰省できた。
金が無いのでどこにも行ってない。
夏季休暇は旅行など、コロナ前の生活に近い経験ができて、充実したものだった。
バイトを増やした。行動制限がないことが恐ろしいと感じ、県外に出ることはできなかった。
県外に行くことが増えた。
問題なく楽しめた。
行動制限はなかったが、コロナが流行っていたのでいつも通りの生活だった。
友達と遊べた。
様々な場所に友達とドライブしに行く機会が去年に比べて多くなった。
旅行に行きました。
行動制限はないものの、インターンシップ研修があったため、感染対策には注意を払い、家で過ごすことが多かった。
バイトをたくさん入れた。教習所に通った。
様々な場所へ遊びに行けた。
朝から夜までしっかりとアルバイトに取り組めた。
サークル活動はコロナ陽性者対応のため停止され、出来なかった。行動制限が無かったことで、五日間のインターンに行くことができたのは非常に良かった。また、旅行に行くこともできた。
帰省後の制約が緩和されたため、安心して帰省することができた。夏休みに帰省出来たのは2年ぶりだったので嬉しかった。

<p>総じて良い影響があったのではと思います。自由に両親の実家へと帰省したり、旅行に行ったりしておりました。特に病気になることもなく楽しめたため、私自身の心身に良い影響があったと考えております。</p>
<p>1回生のときよりも活発に行動することができた。バイト先と家との行き来だけでなく、旅行に行ったり友達とお泊りをしたり、長期休みだからできる過ごし方や楽しみ方ができたように思う。</p>
<p>インターンが比較的従来の方法に戻った状態でいえたと思う。</p>
<p>特段の変化はなく、例年通り実家に帰省した。</p>
<p>制限がなくなったことによって友人と遊べるようになった。</p>
<p>県内だが気軽に外に遊びに行くことができた。</p>
<p>サークルや旅行に行った。</p>
<p>一昨年、昨年よりも様々な場所に行くことができた。</p>
<p>去年よりたくさん遊べた。 旅行にたくさん行った。</p>
<p>前年と比べて後ろめたさなくたくさん旅行することができたので、良い夏季休業を過ごすことができた。</p>
<p>夏季休業期間はインターンシップに忙しく、特に影響を感じなかった。</p>
<p>感染対策に気をつけながら夏休みを十分に楽しむことができたと思う。行動制限がないことで前よりも気楽に旅行に行けた。</p>
<p>長期休暇を自分なりに楽しむことができ、充実した休暇になったと思う。</p>
<p>たくさん県外に出ることができた。</p>
<p>自分自身がコロナウイルスにかかった。</p>
<p>部活の活動が制限された。</p>
<p>サークル活動の自由は大学より制限されており、県外や海外に行っている学生もいる中、憤りを感じていた。</p>
<p>外に出て活動してはいけないという考え方が根付いてしまっていたため、外で活動するのに引け目を感じた。</p>
<p>旅行に行ったり実家に帰って友達と会ったりした。</p>
<p>県外へ旅行することができた。</p>
<p>帰省がなかったので3週間、兵庫県へ帰省できましたし、日常的な遊びや旅行、インターンシップも問題なかったです。また、徳島県で宿舎免許を行いました何が何も問題なく終えることが出来ました。</p>
<p>楽しむことができた。</p>
<p>感染は依然ありましたが、不要不急の外出は控えました。</p>
<p>県外に行くことができた。</p>
<p>旅行に行ってもいいのか、どこまで行動していいのか迷いました。結果、旅行は予定は立てていましたが諦めました。</p>
<p>マスク、手洗い等を気をつけて、行動した。 もう我慢の限界。</p>
<p>久しぶりに家族と旅行に行くことができた。</p>
<p>バイト三昧だった。バイトと外食以外、外に遊びに出るのは極力控えた。</p>
<p>イベントなどが増え、それに参加する回数も増えた。</p>
<p>県外へ様々な経験を得ることができた。新しい世界に触れる能動的な体験が得られた。</p>
<p>ここ2年と比べて色々ところに行けた。初めて見る景色や初めて食べるご当地グルメに出会えて、視野が広がったと思う。</p>
<p>数年ぶりに旅行に行けた。</p>
<p>外出を自粛していたため夏休みは一切出掛けられずストレスだった。</p>
<p>祭りなども再開されるものがちらほらあって友人と行けた。</p>
<p>友人と遊びに行ける範囲が広がった。</p>
<p>旅行に行けた。</p>
<p>注意を払いつつではあるが、県内の親戚に会いに行った。</p>
<p>他地域では、感染が広がっている所も多くあったことに加え、親の職業の都合もあり、昨年と変わらず実家で過ごした。 実家への帰省やアルバイトなどを積極的に行うことができた。</p>

コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅶ

県外に出ることができた。
県外にいる友人に会いに行くことができたため大学生生活の数少ない思い出ができたと思う。
昨年以上に日帰りの旅行などが出来て充実していた。
部活動に打ち込めた。
旅行に行けてリフレッシュできた。
コロナに罹った。
1週間ほどの実習に参加することができました。
旅行などに行けて楽しかった。
1年生の頃のように充実していた。
友達と遠出し宿泊がはばかられ、旅行に行くことが出来なかった。
やはりいろいろなところに行っていた影響をもらったと思います。一回生からこれぐらい動きたかったです。自分に何もなさすぎて怖いです。
行きたかったライブに行けたが、感染したことで夏休みの貴重な2週間を満足に過ごせなかった。
自由に外出できるようになったため、楽しい行事をたくさんすることができた。
比較的自由に過ごすことができた。
コロナにかかった。
3年ぶりに自分の好きなアーティストが来日してライブをすることになったので東京まで行ってライブに行き、楽しむことができた。以前よりも県外に出ても周りの目が気にならない状況になって嬉しかった。
ゆっくり身体を休めた。
実家に帰って、家業の手伝いをすることができた。
体調を悪くしたらバイトに支障が出るため結局行動を制限したように思う。
部活動自体の制限は多かったため、活動や遠征を行うことがかなり難しかった。しかし、旅行など個人での活動は行うことができた。
大阪の実家に帰省した。
対面授業により実際に会う機会が増加したため、友人との距離が近くなり、遊ぶことが出来た。
バイト。
外に出ることが多く、コロナウイルスに対する意識が低下していた。
有意義な夏休みを過ごすことができた。
充実してた。
遠方にいる普段会えない友人との再会を断念したことが幾度かあった。
県外に旅行に行くことができた。
行動制限がないといっても家族と同居している身のため、コロナ対策の面から県外に一度も出られず退屈な夏休みで終わってしまったように感じる。
就活をしやすくなったり、休暇を楽しむことができた。
楽しく過ごしました。
就職活動があったこともあるが、遠出することがなかった。
旅行した。
大学生生活二年間行けなかった分、旅行にたくさん行きました。
最高でした。
行動制限はないが、コロナの人数は多く返って自粛した生活を送った。
コロナがなければもっと外出していた。
特にない。旅行に行って、バイトをして夏休休暇を楽しんだ。
濃厚接触者になり、自宅待機をしていたためアルバイトに行けない日があった。

コロナに気をつけながら部活動に専念できた。
サークル関連で行動制限があったため、窮屈であったのに変わりにはなかった。
実家に帰省し、地元の知人と数年ぶりに会うことが出来た。私に限らず、このような経験は自分自身の成長・変化を実感し、現在の自分や今後の大学生活、ひいては大学卒業後の人生等について「客観的に」考えられる貴重な機会であるため、帰省しやすくなった事が結果的に最も有意義な影響であったように思う。
家にいるか、実家の宮崎に帰省するかで特に遊びには行かなかった。
県外にかなり行った。
東京に遊びに行くことが出来た。
昨年度等に比べ、外に出る機会が多くなり楽しく過ごせた。
旅行をしたり、ゆっくりと地元に戻って友達や家族と会ったりする時間が取れた。
友人と遊べるようになった。
地元に戻った友人と会うことができた。
手洗いうがい、マスクの着用、アルコール消毒を徹底しながら県外旅行を沢山することができ充実した夏休みを過ごすことができた。
特になし。気楽に移動できた。
一度旅行に行く機会がありました。
外出する機会は減ったように思う。
自由に行動できた。
県外へ行くことができた。
外出することへのためらいが少なくなり、気晴らしのために外出することが増えた。
長距離のハードルが下がった。
帰省することに対して不安が薄れた。
帰省することができ、家族や地元の友人と気がかりのない状態で会うことができました。